令和３年度

全国簿記教育研究協議会

主　催　　公益財団法人全国商業高等学校協会

目　　次

出題方針と答案審査基準について ……1

全国からのご意見

・総括 ……2

・第 3 級 ……4

・第 2 級 ……7

・第 1 級 会計 ……11

・第 1 級 原価計算 ……17

・将来の運営 ……21

第 93 回簿記実務検定試験 誤答調査一覧表 ……23

第 92 回・93 回簿記実務検定試験 第 1 級満点賞合格者 ……27

第 92 回・93 回簿記実務検定試験 申込者数・受験者数・合格者数集計表 ……28

学習指導要領の改訂にともなう検定試験の出題内容の変更について ……34

・第 95 回簿記実務検定試験出題範囲 ……35

・令和 5 年度以降簿記実務検定試験 1 級出題範囲（案） ……38

・簿記実務検定試験第 1 級(会計)試験（試験問題例・解答用紙例・全解答例） ……41

・簿記実務検定試験第 1 級(原価計算)試験（試験問題例・解答用紙例・全解答例） ……53

【出題方針と審査基準について】

令和３年度に実施されました第９２回，第９３回の全商簿記実務検定試験の出題方針と審査基準，また全国の先生方からいただきましたご意見・ご要望につきましてご説明いたします。なお，いただいたご意見やご要望につきましては，基本的に原文どおりに掲載しておりますのでご了承ください。

1　出題の方針について

全商簿記実務検定は，日頃の学習の成果を測定するという面を持っております。学習指導要領に示された内容にしたがい学習していれば，ある程度の目標が達成できるようにという観点で作問しております。また，下位級については奨励級として位置づけ，基礎・基本に重点を置くことを踏まえながらも，次学年での学習につながるよう，一部ですが思考力を問う出題をいたしました。さらに，上位級については，上位級としての基本的な出題をしつつ，可能な限り新鮮みある問題を取り入れ，思考力・判断力を問う出題を心掛けました。

（１）出題の範囲

出題の範囲については，現行の学習指導要領にもとづいて作成された「出題範囲表」にしたがい，一部に偏りが出ないよう配慮しながら，全般にわたって出題いたしました。

（２）出題の資料

教科書および過去に出題した全商簿記実務検定ならびに全国簿記教育研究協議会でのご意見を考慮し，作問の資料といたしました。また，新しい会計基準に関した最新文献・論文等も参考といたしました。

なお，全国から４名の道府県代表作問委員にご参加いただき，どのような問題を出題するか決定する「アイディア会議」をおこない，全体の骨組みを決定し，専門委員および道府県代表作問委員で各級を分担して作問しております。

《３級》

３級については，簿記の基礎・基本を対象としているので，簿記の基礎原理・仕訳・元帳記入・補助簿記入・伝票の起票・計算と用語の問題・決算など全分野にわたり出題いたしました。出題の形式については，1は仕訳の問題，2は伝票の起票，3は帳簿記入，4は計算・用語の問題，5は決算の問題としました。奨励級として，基礎・基本を重視しながらも，一部，思考力を問う問題としました。

(92 回)4(3)は移動平均法による商品有高帳の出題としました。5は損益計算書の完成および備品勘定の記入・締め切りをする問題としました。

(93 回)4(3)は小口現金勘定と小口現金出納帳の出題としました。5は合計試算表から精算表を作成する問題としました。

《２級》

２級については，1は仕訳の問題，2は帳簿組織，3は伝票と計算問題等，4は決算の問題としました。

(92 回)3(1)は資料と繰越商品勘定・仮払法人税勘定・繰越利益剰余金勘定・損益勘定から当期の純仕入高・決算日における法人税等の未払額・繰越利益剰余金勘定の次期繰越高を求める問題としました。3(3)の本支店会計に関する問題は，12 月 30 日における元帳勘定残高と 12 月 31 日の本支店の取引から支店勘定残高と本店勘定残高の一致額と本支店合併後の通信費を求める出題としました。

(93 回)3(1)は取引と車両運搬具勘定・車両運搬具減価償却累計額勘定・備品勘定・備品減価償却累計額勘定と固定資産売却（益）勘定から各勘定の金額を求める問題としました。3(2)の本支店会計に関する問題は，12 月 30 日における元帳勘定残高と 12 月 31 日の本支店の取引から支店勘定残高と本店勘定残高の一致額と本支店合併後の売掛金を求める出題としました。

《１級：会計》

１級会計については，1は仕訳の問題，2は分析・連結財務諸表等の問題，3は用語の問題，4は財務諸表の作成に関する問題としました。

(92 回)2(1)は他社の比較を行う問題で，資料から文中の数値を求める問題や適当な語を選択す

る出題としました。2(2)は，資料から貸借対照表に記載する鉱業権の金額を求める問題としました。2(3)は，資料から連結損益計算書・連結株主資本等変動計算書・連結貸借対照表を作成する問題としました。

(93 回)2(1)は他社の比較を行う問題で，資料から文中の数値を求める問題や商品の金額，分析から判明したことを選択する出題としました。2(2)は，売価還元原価法によって期末商品棚卸高（原価）を求める問題としました。2(3)は，資料から連結損益計算書・連結株主資本等変動計算書・連結貸借対照表を作成する問題としました。

《１級：原価計算》

１級原価計算については，1は仕訳の問題，2は総合原価計算の問題，3は計算等，4は個別原価計算の問題としました。

(92 回)2は組別総合原価計算からの出題としました。3(1)は製造勘定・製造間接費勘定・製品勘定と製造原価報告書・損益計算書（一部）・貸借対照表（一部）から当てはまる金額を求める問題としました。(2)は正常減損が発生している場合の完成品原価を求める問題，(3)は直接原価計算の問題，(4)は標準原価計算の問題としました。4は個別原価計算の出題としました。

(93 回)2は工程別総合原価計算からの出題としました。3(1)は製造原価報告書に記載する金額を求める問題，(2)は等級別総合原価計算の問題，(3)は直接原価計算の問題，(4)は標準原価計算の問題としました。4は部門別個別原価計算の出題としました。

なお，各級とも，出題内容に偏りがないよう努めておりますので，出題の順番にかかわりなくまんべんなくご指導いただけますよう，よろしくお願いいたします。

2　審査基準について

(1) 審査基準は，受験生の成績に大きな影響を与えますので，その作成には十分に注意を払いました。

(2) 採点箇所には，次の４つの点に配慮しております。

① 大きな問題では，その中心となる部分ばかりではなく途中の段階および最終の段階も採点箇所としました。

② １箇所誤ったことにより，他の採点箇所も減点されることがないよう極力配慮いたしました。なお，当期純利益などの最終段階はこれに該当しないと考えております。

③ 過去に出題されていない新しい傾向の問題では，採点箇所に十分な配慮をいたしました。

④ 配点は各級とも，原則１箇所４点または３点といたしましたが，一部に２点の配点を加えました。

〔総括〕全国からのご意見

第９２回

① 良問である。(岩手・群馬)

② 基本的な問題から考えさせる問題までバランスのとれた良問であった。(宮城)

③ 簿記検定ニュース(９２号)において３級出題例の解答で，大問３の仕訳帳の記入の摘要欄が各勘定科目にカッコが記入されていませんでした。(愛知)

記載では　1/5　売掛金

売上　　カッコなしで正しいのでしょうか？

④ 新型コロナウイルス感染症の関係で検定中止になったことは残念であった。(岐阜)

⑤ できるだけ受験する回によって合格率に差が出ないよう作問していただきたい。単に「誤答調査で〇〇だから」ということではなく，問題の文章・資料の提示に対して受験生がどのような反応をするかという視点を持って作問していただきたい。作問を工夫していただいていることは大変ありがたいことです。いずれにせよ，結果的に合格率に差が出ないようにしていただきたいです。(高知)

⑥ 総合的に見て適切な問題でした。各級とも検定試験の範囲からまんべんなく出題されていてよかったです。(佐賀)

⑦ 学習の成果を試す位置付けのはずが，回を追うごとに難易度が確実に上がり，授業での取

り組みが反映されなくなってきている。このままでは検定そのものを受験しない学校が増え，簿記離れが加速するのではないかという懸念が残る。（宮崎）

第９３回

①　全ての級において，過去とは違う出題形式のものがあり，戸惑っている様子であった。（愛知）

②　できるだけ受験する回によって合格率に差が出ないよう作問していただきたい。単に「誤答調査で〇〇だから」ということではなく，問題の文章・資料の提示に対して受験生がどのような反応をするかという視点を持って作問していただきたい。作問を工夫していただいていることは大変ありがたいことです。いずれにせよ，結果的に合格率に差が出ないようにしていただきたいです。（高知）

【第３級】全国からのご意見

第９２回

全般

① 良問。（岩手・宮城・茨城・栃木・群馬・兵庫・奈良・鳥取・山口・徳島・佐賀・長崎・沖縄）
② バランスのとれた出題内容であり，難易度も適切でした。（福島）
③ 全般的に基本的で妥当な問題であった。（山形）
④ 令和４年度より，各検定の合格率の目安が出されていたが，ぜひ導入級といて８０％程度の合格率を求めたい。（京都）

1 仕訳

① ｅ．￥４，０００まで表示する必要性がないのではないか。（福井）

3 仕訳帳・元帳・補助簿

(1)① 仕訳帳は，諸口なしの傾向は続くのでしょうか。（静岡）
② ６月２９日，岡山商店の記載が右ページにあり，記入漏れをしている生徒が多くいたため，１ページに収めていただけるとありがたかった。（静岡）
③ （審査基準）仕訳帳の記入を問うのであれば，２９日は元丁欄の記入もなく，別の日を採点箇所とするべきである。（岡山）
④ ３級の出題では，小切手や手形を図で示すことがあるが，金額を見るだけであり，もう少し意図のある出題を考えるべきである。（岡山）
⑤ 仕入帳の合計線を引いていない生徒が多かった。（鹿児島）

5 決算

(2)①総勘定元帳が２つ出題されているためか，損益計算書の配点が少ないと感じた。（山形）
②備品勘定と支払利息勘定の２つが出題されたが，Ｂ／Ｓ科目とＰ／Ｌ科目の締め切りの違いを問うのには良い問題だと思う。今後も２つの勘定を出題するのが良いと思う。（滋賀）

第９３回

全般

① 良問（福島・茨城・栃木・群馬・山梨・東京・山口・佐賀・長崎）
② 仕訳の基本や会計処理の一連の流れを正しくできるか確認の内容であり，大変良かった。（山形）
③ 計算の**過程**をよく考えさせる良問であった。（茨城）

1 仕訳

① 仕訳の設問が実状に合っていて良問であった。（ＡＴＭ・・・の問）（徳島）
② 貸方現金となる解答が８問のうち４問あり，工夫が必要かもしれないと思った。（鳥取）
③ ａ．ＡＴＭ（現金自動預け払い機）と示したほうがよいと思います。（大分）
④ ｃ．株式の買い入れについて，買入手数料の支払いを入れた出題にすべきと思います。（難易度は上がると思いますが）（大分）
⑤ ｆ．「立て替え払いした」の問いに，生徒は戸惑っている様子だった。（山形）
⑥ ｆ．従業員立替金を従業員預り金としている人が多かった。（大分）
⑦ ｈ．資本金を使う間違いが多かった。（鳥取）

2 伝票

① 良問であった。（鳥取）

② 伝票番号の有無で採点基準が変わるのはそろそろ見直した方がいいと思う。（宮崎）

3 仕訳帳・元帳・補助簿

① 現在は「売上帳」は「売掛金元帳」という形式ですが，「売掛金元帳」と「買掛金元帳」の各勘定を記入させてはいかがでしょうか。仕訳の問題には，買掛金に関する問題があるので。（愛知）

② ここ数回，借方１科目，貸方１科目の仕訳（諸口の記入がない）のみの出題になっていますが，意図は何でしょうか。（大分）

③ 諸口がなかったので，解答しやすかったと思われる。（大分）

④ 仕訳帳に載せる取引の数が多い。諸口の問題がないなど偏りがある。（宮崎）

⑤ 総勘定元帳の仕丁欄の有無で採点基準が変わるのはそろそろ見直した方が良いのではないかと思う。（宮崎）

4 補助簿・計算表・適語

(2)① 資料から，期末の資産・負債を求める際に勘定科目の分類ができるかが問われているため，良問と感じた。（北海道）

② 期末の資産のおよび負債のなかに「売掛金」がないのは不自然な気がします。（大分）

(3)① 小口現金出納帳は新しい出題形式で，良問であった。（秋田・三重）

② 新鮮だった。仕訳や転記と小口現金出納帳の関連を問う良問である。（滋賀）

③ 小口現金出納帳に戸惑っている受験者がいた。帳簿類の指導が手薄だったと感じ，指導の見直しが必要であると感じた。（兵庫）

④ 小口現金は仕訳で出題されることが多かったが，小口現金出納帳として出題されることで理解できているか確認ができ良問であった。（徳島）

⑤ 「小口現金」の使途として，「費目別」に消費額を類推する問題であったが，「交通費合計額」を採点対象とするのではなく，「１か月間の全体消費額」を問う形式の方が良いと思われる。（佐賀）

⑥ 「小口現金は月末に補給している」などという文は必要ないでしょうか。（大分）

⑦ 小口現金出納帳は予想外だったようで，生徒は戸惑っているようであった。（山形）

⑧ 小口現金出納帳の記入，計算の誤りが多かった。（新潟）

⑨ 小口現金の仕組みを理解していない生徒が多かった。（鳥取）

⑩ インプレスト法の計算問題がやや難しかった。（愛媛）

5 決算

① 計算量が多くなり，計算に戸惑う生徒がいたが，作成の一連性を問う良問であった。（宮城）

② 合計試算表から精算表の残高試算表を導き出せるかが問われる良問であった。（山形）

③ 残高試算表の金額を求めるところからの設問であり，基本に忠実な問題である。その反面，生徒にとっては手間のかかる問題となった。（千葉）

④ 合計試算表から精算表を作成させるのは，良かったです。貸借対照表や損益計算書の作成の作問もお願いしたいと思います。（愛知）

⑤ 合計試算表から精算表の作成は新しい出題形式で，良問であった。（三重）

⑥ 生徒たちの理解度を確認できる良問であった。（熊本）

⑦ これまでに比べて難易度が高くなったと思いますが，考えさせる良問と思いました。（大分）

⑧ 合計試算表から残高算出が難問であった。（愛媛・福井・福岡・佐賀）

⑨　合計試算表から精算表を作成する問題は初めての出題であり，不正解が多かった。（秋田）
⑩　精算表の出題であるが，合計試算表からの残高試算表欄の転記でとまどい，得点に繋げられなかった生徒がおり，合否の境界で不合格となる生徒がいた。（京都）
⑪　精算表の問題で合計試算表から残高試算表の金額を計算し記入するところで生徒が戸惑っていた。（沖縄）
⑫　合計試算表から精算表を作成させる問題は，従来の問題より馴染みが薄く手間取る生徒もいた。（福井）
⑬　今まで模擬問題や過去問で解いたことがないパターンの出題で，解けなかった生徒が多かった。（鹿児島）
⑭　問題集でも残高を記入してあるものが多いので，問題にしっかり取り組んだ生徒が解けるものにしてほしいです。（広島）
⑮　合計試算表から精算表の残高試算表を作成させることは，作業量も多く，３級としては難易度が高いように思う。（岡山）
⑯　合計試算表から残高試算表欄へ記入する際に，一部金額を記入されていたため，形式に戸惑って無回答の答案があり，正答率が低かった。単位数が少ない学校では検定範囲をようやく間に合わせている状態であり，あまり想像力・応用力を必要とする問題は難しい。（６月の検定にしてほしい）（新潟）
⑰　合計試算表からの出題実績は稀であり，簿記初学習者に残高試算表と合計試算表との性格の相違を認識させ，精算表の空欄を推定，本決算することは厳しい。従来通りの残高試算表からの出題を再考していただきたい。（宮崎）
⑱　今まで模擬問題や過去問で説いたことがないパターンの出題で，解けなかった生徒が多かった。（鹿児島）
⑲　答案用紙の売掛金・貸倒引当金・備品の金額がすでに記入されていたので生徒に大きな影響は出なかったものの，答案用紙が全て空白であればかなり得点率は下がる問題だと思う。しかし，この内容を第５問で問う必要はないと感じるし，解答できなかった場合の影響（失点）が大きすぎる。合計試算表から残高試算表の数値を求めさせたければ，第４問（９１回のような問題）で出題すれば十分であると思う。（滋賀）
⑳　合計試算表から精算表の残高試算表に残高を記入することはわかるが，３つだけ記入されていて，不自然だった。入れるならすべての勘定の金額を入れるか，入れないならすべて入れないでよい。（香川）
㉑　精算表の採点基準について，従来傾向のなかった合計試算表からの精算表作成において，記述させるからには「残高試算表」欄，並びに「整理記入」欄での採点箇所は必須であったのではないか。６か所全て「貸借対照表」欄と「損益計算書」欄というのは偏りすぎで歪である。何のために記述させたのか？ただでさえ整理仕訳を解答させておらず，従来の採点状況とあまりにも乖離しており合格者にも大きく偏りが出ている。出題に工夫されるのは大いに結構で意図もわかるが，同時に配点にも気を配り受験者に何を求めるのかを明確に伝えなければならないということを考えていただきたい。（鳥取）
㉒　精算表で整理記入欄も採点箇所に加えて欲しい。（鹿児島）
㉓　合計試算表からでなく（合計）残高試算表から精算表を作成するのが正しいのでは。（東京・長野）
㉔　合計試算表から残高を計算させた理由を聞きたい。（鹿児島）

【第２級】全国からのご意見

第９２回

全般

①　良問である。（岩手・栃木・群馬・鳥取・徳島・佐賀・長崎・沖縄）
②　基本的な問題から考えさせる問題までバランスのとれた良問であった。（宮城）
③　全体的にバランスのとれた出題内容でした。難易度も適切でした。（福島）
④　全体的に良問であった。（茨城）
⑤　良問が多く，理解度が問われる問題であった。（京都）
⑥　９２回２級簿記は，奈良県全体として受検者が少なかった。（奈良）
⑦　総合的に見て適切な問題でした。各級とも検定試験の範囲からまんべんなく出題されていてよかったです。（佐賀）

1　仕訳

①　仕訳の傾向が変更となり，現金過不足が出題されたが，難易度が高かった。（鹿児島）
ｅ①　企業規模拡張のため（原則）の問題であるが，正答率が高かった。勘定科目一覧表に生徒が迷うように「資本準備金」を入れた方が良かったのでは。（静岡）
②　資本金勘定とするところを社債勘定としていた答案が多かった。（鹿児島）
ｆ①　総勘定元帳から金額を読み取らせる問題であり，良問であった。（山形）
②　受験生が忘れがちな再振替仕訳を意識させる良問である。資料に勘定があるのは新鮮だった。（滋賀）
③　勘定口座が用意してあるのが良かった。（奈良）
④　再振替を勘定から問う良問であった。（佐賀）
⑤　再振替仕訳など，経過勘定項目の流れを理解しておく必要があり，良問であった。（熊本）
ｇ①　３級での出題より難易度が上がっており，工夫された良問であった。問題のマンネリ化を防ぐために，今後も下位級からの出題があって良い。（千葉）
②　「帳簿残高を修正して原因を調査していたが」をきちんと読み取れない生徒がいた。（福井）
③　３級の範囲の問題で，正答率は低かった。（三重）
④　２級の範囲に３級の内容が含められるのは十分理解できるが，受験生は２級の内容を中心に勉強しているため，２級の内容を中心に出題すべきではないか。（滋賀）
⑤　別解が必要ではないか。（兵庫）
⑥　現金過不足の問題が出題されていた。問題集でも出題されていないため忘れている受験生が多かった。（鳥取）
⑦　２級の仕訳問題として，「現金過不足」を出題された意図を知りたい。決算の問題として【4】の決算整理事項の中で出題されたほうがよいと思うのですが。（山口）
⑧　基本的な問題ですが，理解していないような解答がありました。（現金過不足の振り替えが貸借逆など）（大分）

2　特殊仕訳帳

①　純売上高の上部に単線，下部に複線がなければならない，という審査基準は良問。（富山）
②　売上帳の純売上高は日付の締切線も採点対象とすべきであった。（愛知）
③　良問であった。（鳥取・鹿児島）
④　比較的に解きやすい内容であった。記帳や転記に関する出題も基本的な内容であり，良問であった。（熊本）

3　計算問題

①　出題の順番が問題集と異なっていた。それにより（３）の出題は良問であったが，戸惑った受験生もあったと思う。（鳥取）
②　計算問題の中でも特に（２）の正解率が低かった。（鹿児島）

(1)①　総勘定元帳による出題で，それぞれの関係性を読み取ることができるか試されている良問と感じた。（北海道）
②　勘定の流れを理解しているかを問う問題であり，良問であった。（山形）
③　繰越利益剰余金勘定の諸口の表記について，決算の集合勘定である損益勘定，繰越利益剰余金勘定，残高勘定（英米式決算では使いませんが）への転記には諸口は使用せず相手科目を使って転記するものと思います。また，そのように生徒には指導しております。教科書においても実教出版の高校簿記 p. 309 に転記例が記載されていますし，全商２級８１回の出題も諸口ではありません。特に解答に関係はないのですが，全商ＨＰの過去問の掲載にあたっては，修正した状態でお願いします。（埼玉）
④　各勘定記入から決算仕訳及び株式会社における税や利益について考えさせる良問である。（福井）
⑤　純仕入高の計算，繰越利益剰余金の配当の仕訳，決算を組み合わせた問題で，検定対策ではなく，しっかり仕組みの理解が必要な良問であった。（京都）
⑥　問題の読み取りがやや難易度が高めである。繰越利益剰余金と法人税等の手順を理解できていないと難しい。検定としては力を見る良い問題であった。（鳥取）
⑦　３つの解答にはあまり関連性がなく，出題の意図が見えない。（岡山）
⑧　仕訳だけを問うではなく，勘定の流れから考えさせる良問であった。（佐賀）
⑨　剰余金の処分および配当の処理など，一連の流れを理解しておかなければ解けない問題であり，良問であった。（熊本）
⑩　考えさせる良問であると思われます。（大分）
⑪　ｂ未払法人税等の額でもよかったのではないでしょうか。（大分）
(2)　（イ）は借方にも表記してもよいのではないでしょうか。（大分）
(3)①　ⅱ本支店の 12/31 の取引内容が受験生には分かりづらいようだった。（千葉）
②　本支店の問題はできていなかった。未達仕訳をやりきれている生徒からすると通常の本支店の仕訳をしっかりとイメージできず，正答率が下がった。（静岡）
③　本店勘定残高と支店勘定残高の一致額のミスが多かった。（静岡）
④　本店と支店の両方を仕訳する生徒が多かった。支店の仕訳のみ要求する書き方があるべきだと思いました。（愛知）
⑤　本支店会計の問題において，取引①通信費の支店負担分の仕訳に戸惑い，誤答となった生徒が多く出た。（京都）
⑥　本支店合併後の現金の金額も問うてもよかったのではないでしょうか（本支店の取引において３回記帳されている。）（大分）

4　決算

①　２級に必要な最低限の事項のみを問う問題で，生徒が学習した努力が報われる良問である。（愛知）
②　良問であった。（鳥取・鹿児島）
ｇ①　新しい表現でよかったと思います。（大分）

第９３回

全般

①　全般的に妥当な良問であった。（山形）
②　全体的に良問であった。（茨城・栃木・群馬・徳島・佐賀・長崎）
③　１，２，３級すべて良問である。（山梨）
④　出題範囲表に「裏書や割引にともなう保証債務」がありますが，２級の勘定科目表に「保証債務」がないのはなぜですか。（東京）
⑤　簿記検定ニュースでは３級の範囲も出題すると書いてあったので，予告するならば出題してほしい。（愛知）
⑥　全体的に標準的な問題で良問であった。（京都）
⑦　93 回２級簿記は，奈良県全体として受験者が少なかった。（奈良）
⑧　全体を通して，バランスの良い出題であった。（鳥取）

⑨　これまでよりも少し難易度が高くなっている。(岡山)
⑩　全体的に例年より難しく感じた。(山口)
⑪　(全体的に) 今後の２級が目指す方向性が見えて出題であったが，仕訳の内容，特殊仕訳帳，計算問題，決算の損益勘定出題を全体的に見ると難解だった。(宮崎)
⑫　基本がしっかりできていれば解ける良問であった。(沖縄)

1　仕訳

①　良問であった。(佐賀)
ｅｇ①　社債の買入償還・株式の発行の仕訳が，会計と２級で出題されている。２科目受験する生徒がいるため，出題内容が重なっていないほうがよいと感じた。(鳥取)
ｆ①　社債の帳簿価額には「償還時」など時点を明確にすべきではないでしょうか。(大分)

2　特殊仕訳帳

①　帳簿記帳の問題の中で，計算問題的要素が入ったことに戸惑う生徒がいた。(宮城)
②　考えさせる問題は大切なことは理解しているが，教科書に載っている基本的な内容もしっかりと学ばせて，身に付けさせなければならない。しかし，今回の試験は内容が難しく，もっと基本的な問題の出題を検討してほしい。(福島)
③　特殊仕訳帳を減らし補助簿を入れることには賛成であるが，生徒としては問題演習での対策がしにくく，難しいと感じているようである。(愛知)
④　商品有高帳の出題であったが，仕入値引き処理に関する出題も想定されるのかお教えください。教科書内では処理事例が見られないがいかがでしょう。(京都)
⑤　商品有高帳の記入について，前月繰越から２行にまたがっていること，最終日は単価が残高と同じであるため合算して表示することなど，受験生は困惑していた。(岡山)
⑥　商品有高帳は３級で学習し，検定の範囲にもなって計算問題などで出題される。今回２級で帳簿記述の問題が出題された意図が分からない。(香川)
⑦　20 日の残高を 20 日の受入れと 17 日の残高を合計するのは授業で説明してなかったので，戸惑っている生徒が多かった。(香川)
⑧　商品有高帳に戸惑っていた。計算問題の量が多く，正答率が下がっていた。(愛媛)
⑨　商品有高帳をあえて２級で出題する必要があるのか。(大分)
⑩　特殊仕訳帳が売上帳だけで，使用しない勘定口座もあり，時間がかかる。さらに計算問題の量も増えており，時間的に処理量が大変だった。(宮崎)
(2)①　Ｃ品の商品売買益は必要ないと思われる。(千葉)
②　３分法に慣れ，商品売買益の考え方が薄れている受験生にとって，再認識させる良い問題であった。(千葉)
③　基本的な特殊仕訳帳の問題であったが，(2) Ｃ品の商品売買益の計算問題の誤解答が多かった。今後も，商品売買益は出題されますか。(静岡)
④　商品売買益を出す問題は思考力を問う問題で良問であった。(三重)
⑤　商品売買益を求める意図は？(大阪)
⑥　正答率が悪かった。(佐賀)
⑦　￥180,000－￥204,000＝（－）￥24,000 と考えた答案がありました。(大分)
⑧　意図はわかるが，２級で商品有高帳の売上原価(商品売買益)まで問う必要性があるのか？(宮崎)

3　計算問題

①　考えさせる問題は大切なことは理解しているが，教科書に載っている基本的な内容もしっかりと学ばせて，身に付けさせなければならない。しかし，今回の試験は内容が難しく，もっと基本的な問題の出題を検討してほしい。(福島)
②　今後も（１）～（４）まで出題されるのか。(三重)
③　良問であった。(佐賀)
(1)①　特に良問であった。(北海道)

② 車両運搬具，備品２つの固定資産会計処理において，さらに新たな固定資産購入をする問題構成は，難しい内容でした。日商簿記検定に近いのではないか。（福島）
③ 問いの記載内容について生徒は理解に苦しんでいた。（千葉）
④ ２種類の備品が出てきて，減価償却の計算を戸惑う生徒がいた。全商２級においてそこまで求めなければならないのか疑問。（福井）
⑤ 複数の備品を考えさせることは，２級の出題ついては難易度が高いように思う。（岡山）
⑥ ①良問である。（香川）
⑦ 暗記に頼らず，一連の流れを理解しているか分かる良問であった。（佐賀）
⑧ 固定資産の一連の処理について，勘定から取引を読み取るなど，本質を理解していなければ正答できない問題であった。難易度は高かったが，よく練られた良問であった。（熊本）
⑨ 考えさせる良問と思いました。１／１に車両運搬具の売却，備品の買い入れの取引はありうるのでしょうか。不自然な気がします。（大分）
⑩ 減価償却についての深い理解がないと厳しい問題。（宮崎）
⑪ 各勘定の残高の意味が整理できていない。（宮崎）
⑫ 難易度を上げるためか，備品をＡとＢにしている。１つで良かった。（宮崎）
(3) 正答率が低かった。（奈良）
(4)① 検定の範囲の関係で仕方ないと思いますが，今後は個人企業会計ではなく，株式会社会計に一本化していただけるとありがたいです。（愛知）
② 点数の帳尻合わせ感がある問題だった。（大問３（１）の影響か）（宮崎）

4 決算

① 損益勘定を出題した意図は何か。精算表や２区分のＰ/ＬとＢ/Ｓが妥当ではないか。（千葉）
② 損益勘定の記入，貸借対照表の作成でセット採点の箇所の誤りが多かった。（新潟）
③ 損益勘定で「資本金」と書けない生徒がいたが，決算の問題として良問である。（福井）
④ 損益勘定の仕入と資本金の科目名，金額の誤解答が多かった。（静岡）
⑤ （付記事項）売掛金を貸し倒れとすることで，決算整理ｂの貸倒見積高にも関係して難易度が高くなっている。（岡山）
⑥ 損益勘定は，利害関係者に資料を提供しないのに，なぜ出題するのか説明してください。（広島）
⑦ 付記事項が難しいと感じた。（香川）
⑧ 損益勘定の資本金を当期純利益と書いていた生徒が多かった。（佐賀）
⑨ 損益勘定が出題され，戸惑った生徒も少なくなかったが，考える力を養い，パターン学習に陥ることを防ぐ良問であった。（熊本）

【第１級会計】全国からのご意見

第９２回

全般

①　良問である。（岩手・栃木・群馬・徳島・長崎）
②　基本的な問題から考えさせる問題までバランスのとれた良問であった。（宮城）
③　全体的にバランスのとれた出題内容でした。難易度も適切でした。（福島）
④　全体的に良問であった。（茨城）
⑤　適切であり，良い問題であった。（長野）
⑥　すべて良問であった。（岐阜）

1　仕訳

①　力のある生徒とそうでない生徒との差が出やすい問題ばかり。出題としては適切である。難易度は高いと思われる。（鳥取）
②　良問である。（鹿児島）
ｂ①　社債売却の際，小切手で受け取りの取引は通常行われていることなのか。実態とかけ離れてはいないか。（兵庫）
ｅ①　借方「繰越商品」を「商品」とする答案が多かったと思います。（大分）
ｇ①　新しい内容でよかったと思います。（大分）
②　端数利息を正確に理解できているかを問われる難しい問題だった。（奈良）

2　分析・計算等

(1)① 比率の計算を誤ると，直後の選択問題も不正解となる問題が多い。平均回収日数は初めて出題されたが，Ｂ社の値が示されており，配慮されていた。（愛知）
② 資料ｉのデータ配置が，受験生の間違いを誘発していると思う。当期首と当期末を比較する資料を作成する場合，比較しやすいように当期首と当期末を隣り合わせで作成すると思われるため，資料もそうすべきではないか。（滋賀）
③ 素直に２社を比較する問題で，順序立てて解きやすい問題であった。（京都）
④ 説明文５行目で「収益性が高いのはＢ社である」と結論を示したため，後の結論がすべてＢ社に引きつけられてしまう。結論は受験者に考えさせるべきである。ウ→Ｂ社　オ→Ａ社　キ→Ｂ社　コ→Ｂ社（岡山）
⑤ 負債比率の計算で，負債額を資産総額と純資産から推測させることは，改めて基本を問う良問であった。（岡山）
⑥ 資料ｉの「受取勘定」は受取手形と売掛金の金額に分けて，考えさせたほうが良いのではないでしょうか。受取勘定では直接的すぎる気がします。（大分）

(2)①良問。償却額を答えてしまう生徒が多かった。（愛知）
②生産高比例法による計算は新鮮で，生産高比例法による減価償却費は月割計算が不要であることを問う良問である。（滋賀）
③ 良問である。（鳥取）
④ 鉱業権償却の計算は９割の生徒が正しくできていたが，８割の生徒がそのまま鉱業権償却の金額を解答とし誤答となった。（鳥取）
⑤取得日・決算日を入れることで，必要のない期間を考えさせ，思考を問う良問であった。（岡山）
⑥ １の仕訳の問題とあまり変わらない出題と感じました。また，貸借対照表上の金額を問うのであれば，表示区分も合わせて問うべきと思われます。（大分）
⑦ 鉱業権償却額を解答した生徒が多数いた。（宮崎）

(3)① 連結財務諸表を作成する問題であり，財務諸表のつながりを理解させるために非常に良い問題であった。（千葉）
② 連結の問題がきちんと理解していないと解けない問題であり難しい。（福井）
③ 教科書の例題のみで問題集にはない問題形式で戸惑った生徒が多かった。（長野）
④ （３）の形式に戸惑った生徒がいた。（静岡）

⑤ 例年であれば，問３はいくつかの指定した部分の金額を記入していく問題であるが，今回は連結財務諸表を作成していく必要があるため，受験生の負担が大きく，試験中に解ききれない可能性があったのではないかと考えている。（静岡）
⑥ 連結の問題はわかりやすく良問であった。（静岡）
⑦ 連結P/L，S/S，B/Sの３つともが出題であったため，生徒は戸惑っていた。まずは，一つだけの出題でも良かったと思います。（愛知）
⑧ 連結会計において財務諸表への記入が出題されており，体系的にしっかりと理解していることが必要な良問であった。（京都）
⑨ 連結会計において非常に良い問題であると感じた。過去の傾向からようやく最終形の形が見られた気がしました。（兵庫）
⑩ 採点箇所も配慮されており，従来の計算問題が解ければ，十分解答可能な良問である。（鳥取）
⑪ 連結P/L，S/S，B/Sの作成の出題が工夫されていてよかった。（鳥取）
⑫ 連結財務諸表の出題だったので難しいと感じた。１回で３つの財務諸表を出題せず，２つくらいにしても良かったのではないかと思った。（徳島）
⑬ 連結会計で求めるレベルが高すぎると思う。（福岡）
⑭ 連結会計において，連結損益計算書，連結株主資本等計算書，連結貸借対照表を作成する問題は，財務諸表の関連と流れを理解するうえで良問であった。（長崎）
⑮ 連結会計の問題については，はじめて連結財務諸表の作成が出題された。部分的にしか理解していない生徒にとっては，難易度が高かったかもしれないが，連結会計の本質を理解するためにも，今後もこの形式で出題をしてほしい。（熊本）
⑯ 良問であると思われます。特に，勘定科目があらかじめ印刷されていたので解答に支障はなかったように感じました。（大分）
⑰ 過去にない連結財務諸表の出題形式で，基礎・基本の力を問う良い問題だった。（鹿児島）

3 適語選択

① 良問である。（鹿児島）

4 貸借対照表・損益計算書

① 有価証券の分類と評価方法を問う問題であり，良問であった。（山形）
② 近年の決算問題は仕訳が難しかったため，本問程度の難易度が理想だと思いました。（愛知）
③ 決算を難しく感じている受験生が多くみられた。（兵庫）
④ 決算整理事項の見越し繰り延べの問題は，なるべく文章で出題してほしい。（奈良）
⑤ 付記事項で，多くの減点になる出題の仕方は控えてほしい。（奈良）
⑥ 会計は前回より難易度が上がったように思われるが出題として全般的に適切である。（鳥取）
⑦ 付記事項の「西北株式会社」が「西北商店」に訂正になりましたが，訂正理由を教えてください。（鳥取）
⑧ 良問である。（徳島）
⑨ 貸借対照表の前払保険料の記入が多かった。付記事項が少なく，非常に解きやすい問題であった。（佐賀）
⑩ 付記事項は基本的な内容であったが，模擬試験問題では，前受収益や未収収益の決算事項をあまり取り扱っていなかったため，戸惑った受験生が多く，正答率が低かった。機械的に取り組んでいる弊害であると感じた。（鹿児島）
e① 保険料の前払高について，流動資産及び固定資産に計上する金額を判断する力を問う問題であり，良問であった。（熊本）

第９３回

全般

① 全体的にバランスのとれた出題内容でした。難易度も適切でした。（福島）
② 全体的に良問であった。（茨城）
③ 全体的に基本的な問題が多く，良問であった。（千葉）
④ すべて良問であった。（岐阜）
⑤ 日頃の成果が発揮しやすい問題であり，検定に向けてしっかりと対策ができている生徒であ

れば合格できる難易度の問題であった。（京都）
⑥　財務会計の重要ポイントがバランスよく出題され，受験者の能力が自覚できる内容で問題量・質ともに適切であった。（京都）
⑦　全体として４点の配点が高く，また配点箇所が少なくなるため，正答できた場所により合否に大きな影響がでる。（奈良）
⑧　内容，レベルとも良問であった。（島根）
⑨　全体的に良問であった。難易度も過去の検定と変わらずに安定していたので良かった。（佐賀）
⑩　良問であった。（徳島・長崎・沖縄）

1　仕訳

①　償却原価法の問題が多いと感じた。（静岡）
②　大問４も見ると社債や有価証券等に絡んだ問題が多いように感じた。（静岡）
③　良問ではあるが，(2)と(5)で社債の計算が２度問われているので，(2)は別の問題でも良かったのでは。（愛知）
④　良問である。（香川）
⑤　仕訳問題は，言葉の使いまわしにより誤解や迷わせるのは良くない。（本社社屋）（佐賀）
ａ①　保証債務の金額を間違えている生徒が多かった。（鳥取）
②　保証債務について，ひっかけ問題は良くない。（佐賀）
ｆ①　「本社社屋」の意味を構築物と錯誤した誤答が多数見られた。（宮城）
②　「建築」という言葉から建物と構築物を間違えて仕訳している生徒がいた。（福井）
③　「社屋」という聞きなれない用語で「構築物」と誤答する生徒が数名いた。（長野）
④　社屋が読めなかったり言葉の意味を理解することができず，構築物という誤答が目立った。（滋賀）
⑤　社屋の意味を勘違いしたために，「構築物」の誤解答が多かった。日本語の理解を問う問題になっていた。（奈良）
⑥　建物勘定を構築物と解答していた。社屋の意味が分かっていないのではないか。難易度は高めだが１級としては良い問題である。（鳥取）
⑦　社屋とは何なのか理解していない生徒が多かった。（山口）

2　分析・計算等

①　生徒にはやや難解であったように思うが，これからも，このような出題をしていくのか方向を示していただくとありがたい。（山梨）

(1)①　従来(6月)模範解答には小数点以下が表示されていたが，今回その表記が無かった。今後生徒にはどのように指導すべきか？（山形）
②問題用紙の資料ⅰⅱⅲは上に，設問①～③は下の方が解きやすい。（長野）
③　「14.0」のように，小数第１位まで答える生徒が数人いた。（三重）
④　財務分析の問題は，標準的で解きやすい問題であった。（京都）
⑤　正答率が高く，問題文の表現が分かりやすくて良かった。（奈良）
⑥　適切である。レベルもちょうどよい。（鳥取）
⑦　収益性の分析の際，今回は期末の数値を使っての計算であるが，期首・期末の平均から計算する場合もあり，全商としての考えを教えて欲しい。（岡山）
⑧　②の計算は，Ａ社とＢ社の比較には必要のない数値であり，出題の意図から外れ，問題の質を下げることになっている。（岡山）
⑨　Ａ社とＢ社を各比率から総合的に判断させ，良問である。（岡山）
⑩　ア～キはすべて端数処理はなく，答えも「140」となっている，答案は「140.0」　とか「120.0」とかが多かったが，「○」としている。今回満点審査申請があり，該当者の答案の審査を行った。カとキ以外の％の問題は「140.0」となっていた。該当者は別の箇所の間違いがあり，96点となったが，満点合格申請の場合「140.0」とか「4.0」の扱いについて教えて欲しい。（本部校）（広島）
⑪　良問である。（香川）
⑫　財務諸表分析については，推定箇所も少なく，難易度も適切であった。（熊本）

(2)①　適切である。レベルもちょうどよい。（鳥取）
②　売価と原価を逆に表示させ，パターン化を避けた考える問題となっている。（岡山）
③　良問である。（香川）
④　出題傾向に慣れていないため難易度が高かった。（佐賀）

(3)①　１ヶ所ミスをすると連動して，複数の失点につながるのはいかがなものか。（岩手）
②　連結会計の一連を問う問題であったが，株主資本等変動計算書の期首残高からの読み取りができないと進めない問題であった。（宮城）
③　連結財務諸表の問題提示がわかりづらく，誤答が多かった。（山形）
④　連結損益計算書に「のれん償却　400」が正しく入らないと株主資本等変動計算書の「利益剰余金」，連結貸借対照表の「非支配株主持分」も誤答になってしまう生徒が多くいた。ほかの方法でも求められるが，採点箇所に工夫があっても良かった。（茨城）
⑤　今回，支配獲得日のＳ社資本については文章ではなく，株主資本等変動計算書から読み取るものであった。資料を読み取れず誤答の生徒が多かった。（栃木）
⑥　第 92 回と同じような出題である。問うところを変えた方がよい。（福井）
⑦　連結の問題は，今後こういった出題傾向でいくのでしょうか。難問であった。（静岡）
⑧　連結に関して，連結財務諸表の作成について良問であるが，練習問題など対策が必要であると感じた。（静岡）
⑨　この形式では連結会計が苦手な生徒は初めから手を付けず，連結会計離れを招くのでないか心配である。また，文章による指示が少なく，個別財務諸表から数値を読む形式も難しい。支配獲得日におけるＳ社の純資産だけでも資料ⅱに記載するべきである。（愛知）
⑩　前回の 92 回検定とほぼ同じ出題であるのは，前回の正答率が低かったからでしょうか。それとも，今後このような出題が増えていくのか。（三重）
⑪　開始仕訳ができないと点数に結びつかない問題だが，支配獲得日におけるＳ社資本のデータが文中になく失点する生徒が多かった。多様な生徒が受験するので，次回以降，例年通り丁寧な説明があったほうが良いと思う。（滋賀）
⑫　92 回に続き連結会計において財務諸表への記入が出題された。前回同様，体系的にしっかりと理解していることが必要な良問である。正答率は上がった。（京都）
⑬　連結の問題の難易度が高い気がします。（大阪）
⑭　連結の問題が年々難しくなってきている。（奈良）
⑮　資料ⅱ　支配獲得日のＳ社の利益剰余金に出題の工夫があり良問である。しかし，これまでの出題形式と違ったため，誤答が多かった。（鳥取）
⑯　連結問題で暗記のみでは解けない良問であった。（島根）
⑰　取得日の情報が資料ⅱの中になかったので，難しく感じ戸惑う生徒が多かったが，理解度を問うための良問であった。（山口）
⑱　《ⅱ》書き方がわかりにくい。（香川）
⑲　支配獲得日の資本金や利益剰余金を株主資本等変動計算書から読み取ることができなかった生徒が多かったが，本質を問う良い問題だったと思う。（香川）
⑳　部分的な視点の問題から総合的な問題へと徐々に移行していることも良かった。（佐賀）
㉑　Ｐ社がＳ社を取得し支配した際の資本金・利益剰余金を資料の中から読み取らせる，生徒の理解度を問う良問であった。（長崎）
㉒　連結会計の処理の範囲を明示していただきたい。（教科書に掲載されている内容が範囲であるとの回答を以前からいただいておりますが，教科書は各学校で採用が異なり，各社に共通する分野がわかりづらいため，明示をお願いしたい。）（長崎）
㉓　連結財務諸表の作成はヒントも与えてあり良問であったが，受験生にとっては，難易度が高いように感じた。指導者側が学び続け，本質を伝える必要性を感じた。（熊本）
㉔　連結会計の問題については，前回に続き，連結財務諸表の作成が出題された。部分的にしか理解していない生徒にとっては，難易度が高かったかもしれないが，連結会計の本質を理解するためにも，今後もこの形式で出題をしてほしい。（熊本）
㉕　レベルが上がっている。子会社株式の資本金が見つけにくい。（宮崎）
㉖　株主資本等変動計算書から資本金，利益剰余金を持ってきて，投資と資本の相殺仕訳を行えず，誤答が多かった。（鹿児島）
㉗　被支配株主持分の誤答が多かった。資料として，文章での説明がなかったためかＳ社の剰余金の配当および当期純利益の連結修正仕訳を行っていなかった。（鹿児島）

3 適語選択

① 適切である。（鳥取）
② 良問である。（香川）
③ a.と b.両問とも同じ系統の問題と思います。（大分）

4 損益計算書・貸借対照表

① 仕訳の 1-b と同じところが問われる問題と感じる。ここでできなかった場合，①他のところを訂正する間違い②貸借対照表の有価証券の金額③有価証券評価損の金額以上のことで，二重にも三重にも減点されるのではないでしょうか。また，この回で有価証券ができないと 10 点分の減点になるのは大きいと感じた。（北海道）
② 付記事項のミスから，複数失点になるのはいかがなものか。（岩手）
③ 未収収益→未収利息　投資有価証券→満期法目的債券　生徒の記入ミスが多くいた。どちらかを金額のみにしてもいいのでは。（茨城）
④ 採点箇所を配慮してほしい。（売上原価の金額を間違えてしまうと，当期純利益も間違えてしまう。）（茨城）
⑤ ［１］b の仕訳と［４］付記事項②で，ともに売買目的で社債・株式を買い入れた際の買入手数料に関する出題であるが，同一回で同じような内容を２箇所問う意図を教えていただきたい。（茨城）
⑥ いつも検定作成にご尽力頂き，感謝申し上げます。仕訳 b 売買目的の社債を購入した時の買入手数料の処理と決算　付記事項②支払手数料の処理について，論点が同じです。この論点が誤答となった場合，12 点減点されてしまいます。同一回で同じ論点を出題した意図を教えていただきたいと思います。（東京）
⑦ 当期純利益が採点箇所なので，上のところで不正解だと最大で８点の減点となるのは配慮が必要だと感じた。（富山）
⑧ 付記事項②の仕訳ミスが多かった。（福井）
⑨ 付記事項がわかりにくかった。（静岡）
⑩ 解答用紙の(3)は，”貸借対照表に記載する流動負債合計の金額”との表記があるとよい。（愛知）
⑪ 有価証券は買い入れたときの手数料を買入価格に加えて取得原価とする，という内容のものが２か所で出題されていた。（三重）
⑫ 付記事項②の仕訳ができても，有価証券評価損を正しく出せていなかった。今までにあまりなかった処理で，良問であった。（三重）
⑬ 有価証券の買入手数料を問う問題が 1b と 4 付記事項に出題されている。もっと幅広い論点を問うほうが良いのではないか。また，付記事項や決算整理事項で，過去の検定等ではあまり見られない出題のされ方が原因なのか，大きく点数を落とす生徒が多く，合否に大きな影響を与えた。問題そのものは基礎力が十分に備わっている生徒には妥当なものであったと思われるが，多様な生徒が受験するので，今後そのあたりにも配慮していただきたく思う。（滋賀）
⑭ 有価証券の評価（付記事項を含む），未収収益の問題は難解であったが，考えさせる良い問題であった。今後も続けてほしい。（兵庫）
⑮ 付記事項②　買入手数料を売買目的有価証券に含める処理ができていない生徒が多かった。そのほかは出題レベルとして適切。難易度は高めだったように思うが出題として全般的に適切である。決算整理事項に前払保険料と前払家賃の２つが出題されており，工夫された良問である。また，採点箇所にしない配慮があった。（鳥取）
⑯ （審査基準）決算整理事項で e・f と前払高の計上となっており，解答には合算して計上することとなるが，その点を確認するには審査基準に入れてもよかったように思う。（岡山）
⑰ 付記事項②，決算整理事項 c など考えさせる良問であった。（山口）
⑱ 付記事項②での訂正が修正し忘れている生徒が多かった。理解を問う良い問題だったと思う。採点箇所は，売上原価合計でなくてもよいのではないか。（香川）
⑲ 付記事項の修正ができず誤りが多かった。（佐賀）
⑳ 付記事項２は有価証券購入時の買入手数料を，取得した売買目的有価証券に加えて処理するということが理解できているかを問う良問であった。（長崎）
㉑ 売買目的有価証券については，手数料を考慮後に時価評価する必要があった。深く理解していなければ正答できない問題であり，良問であった。（熊本）
㉒ 決算が少しこれまでにない付記事項があって難しかったかもしれないが，大問２の計算問題

等とのバランスを考えるとちょうど良かった。（宮崎）
㉒　付記事項②の仕訳が理解できなかった生徒が多かった。（鹿児島）
㉓　決算整理で前払～が２つ出てきたため，「前払費用」でまとめずに，それぞれを貸借対照表に記入している生徒がいた。（鹿児島）
㉔　収益の見越しについて,未収収益及び受取利息で処理されていなかった。また費用の繰り延べについて複数の場合の処理に戸惑った答案が多かった。（鹿児島）
ｃ①　付記事項との関連（売買目的有価証券の評価）が斬新で，誤答が多かった。（山形）
②　間違えてしまう生徒が多くいたが，良問であると思う。［２］でも書いたが，１つ間違えると当期純利益も間違えてしまう。全体的なバランスを考えて採点箇所を決めてほしい。（茨城）
③　新しい形式の付記事項だが，配慮もあり，良問である。（富山）
ｄ①　減価償却費の計算が従来通りの定率法であった。しかし，すでに教科書では 200%定率法しかない。従って，従来の定率法を出題されると授業と検定の相違が出て混乱する。（山形）
ｅｆ①前払費用を合算する出題は今までなかったので，良問であった。（栃木）
ｅｆｇ①　難問ではないが，収益費用の見越し繰り延べが３つあり，本校の生徒にとっては戸惑う問題であった。（山形）
②　前払費用２つ合算と，未収収益の組み合わせが斬新であった。（山形）
ｇ①　未収収益も生徒が苦手な所であり，学習の成果が問われる良問であった。（栃木）
②　「前払費用」は書けたが，「未収収益」と書けない生徒が多かった。（山口）

【原価計算】全国からのご意見

第９２回

全般

① 全体的に良問であった。（茨城・群馬・長野・岐阜・長崎）

② 基本的な問題から考えさせる問題までバランスのとれた良問であった。（宮城）

③ 全体的にバランスのとれた出題内容でした。難易度も適切でした。（福島）

④ 費目別の計算の問題においては，非常に良い問題であったと思います。（兵庫）

⑤ 全体として難易度が高く，92 回と 93 回の難易度の落差が大きすぎる。（奈良）

⑥ 92 回原価計算は，奈良県全体として受験者が少なかった。（奈良）

1 仕訳

① 良問である。（徳島）

ｂ① 仕訳問題で補助部門費の配賦と等級別原価の計算が同時に出題されている。（長崎）

② これまでの形式とは異なる出題で，より読解力と応用を問われる問題だった。（宮崎）

ｄ① （借）健康保険料と仕訳している受験生が多かった。（鳥取）

② 誤答が多かった。（鹿児島）

2 総合原価計算

① 良問であった。（鳥取・徳島）

② 組別総合原価計算の基本的な問題であり，組間接費の配賦基準も直接労務費など模擬試験問題集でも頻繁に取り扱っていたため，正答率が高かった。（鹿児島）

3 適語・計算

① 過去の出題を組み合わせた良問である。（富山）

② 直接原価計算や標準原価計算も基本的な内容であったため，これらの小問についての正答率は高かった。（鹿児島）

（１）① 勘定の流れを理解しているかを問う問題であり，良問であった。（山形）

② 製造原価報告書と各勘定を関連付けた問題であり，良問である。（福井）

③ 勘定記録・製造原価報告書・損益計算書・貸借対照表の関係性の理解が問われる良い問題であった。（京都）

④ 製品勘定の前期繰越高を示せば，色々な方向から考えることができ，さらに思考を広げる問題になる。（岡山）

⑤ 思考力が問われる問題であり良問である。（徳島）

⑥ 一連の流れを問うための良問であった。（佐賀）

⑦ 考えさせる良問であると思われます。（大分）

（２）① 完成品原価を求めている生徒が多かった。（山形）

② 減損計算が誤答が多かった。（鳥取）

③ 月末仕掛品の計算が，なぜ必要なのかを理解できているかを問う良問である。（長崎）

④ これまでの形式とは異なる出題で，より読解力と応用を問われる問題だった。（宮崎）

（5）①　セットで配点しなくてもよいのでは。（山形）

②　イの誤答が多かった。（鳥取）

③　アは解答しやすくないでしょうか。（大分）

4　個別原価計算

①　過去の問題にはない形式であり新鮮味があった。パターン学習しかしていない生徒は，かなり戸惑った様子であった。（山形）

②　部門別でない個別原価計算であり，良問だった。差異分析をおこなう際に必要な製造間接費の月間基準操業度，月間予算，実際発生額が丁寧に資料として与えられていたが，取引や資料から計算させる出題があっても良い。（千葉）

③　今までのパターン的な問題と違い，良問である。（富山）

④　全体的な配慮はあるが，大問４としては部門別計算を出題してはどうか。（福井）

⑤　難易度を抑えた良い問題であった。授業で活用したい。（愛知）

⑥　予算差異を求める問題について，一連の問題とは関係しない問題であり，わざわざ第４問に入れたのはどのような意図があるのか。また，その他の問題も近年にはない出題形式で，戸惑う生徒が多かった。（滋賀）

⑦　想定されていた部門別個別計算以外の問題であり，公式法変動予算による予算差異の計算の出題も想定内であったが，正答率は高くなかった。（京都）

⑧　良問であった。（鳥取・徳島）

⑨　別解は製造勘定に関するものであるから，わかりやすくその下に示すなどの配慮を望む。（岡山）

⑩　30 日④の外注加工賃¥168,000 が製造勘定に記入されていないものが多かった。（愛媛）

⑪　出題傾向が大きく変更されており，戸惑う生徒が多数見られた。事前に何かしらの情報提供があるとありがたい。（福岡）

⑫　考えさせる良問であると思われます。（大分）

⑬　これまでの形式とは異なる出題で，より読解力と応用を問われる問題だった。（宮崎）

⑭　部門別個別原価計算ではなく，個別原価計算が突如出題され，対応できない生徒も多かった。（宮崎）

⑮　個別原価計算においては，部門別の問題が固定化しており，模擬試験問題集などを機械的に取り組んできた受験生が多かったと思う。今回の問題は，模擬試験問題集でも出題されていない形式で，基礎・基本の定着が本当の意味で問われた問題だと感じた。また，予算差異を問うなど全体的に個別原価計算の理解が問われた良問であった。出題の仕方が丁寧すぎて，どの資料を使えば良いのか混乱した受験生が多かったように感じる。過去問対策に偏っていたため，戸惑った生徒が多く，理解不足を感じた。製造勘定への転記で「外注加工賃」の部分を間違っている生徒が多かった。（鹿児島）

（2）①　製造勘定への転記で，相手勘定科目である「外注加工賃」の別解が「諸口」であった。しかし「諸口」だと製造指図書番号のない電力料，減価償却費，雑費も製造の直接経費となってしまうので妥当ではない。¥168,000 の相手勘定科目は，あくまでも直接経費である「外注加工賃」とすべきではないか。何社もの教科書を調べたが「諸口」でよいと思われる根拠となるような記述がない。　また，大問 4 は A4 版になってから，仕訳が一部となり勘定記入させる問題がメインとなっている。もしこの別解が正しいのであればなおさら，こういう箇所を採点基準と

すべきではないと思う。(栃木)

(4)① 製造間接費の差異分析を総合問題に組み込むという新しいパターンであった。基本的な知識を問う問題で良問であったが，パターンで差異分析を覚えている生徒がほとんどであったため，出来ない生徒が多かった。(静岡)

② 予算差異の金額は合っているが，借方差異と回答しているものが多かった。有利差異は貸方差異の認識が不足していた。(愛媛)

③ 標準原価計算での差異分析ばかりに慣れてしまっている生徒にとっては，実際個別原価計算の中でも差異分析があるという基本を問われる良問であった。(長崎)

第９３回

全般

① すべて良問であった。(山形・茨城・栃木・群馬・長野・岐阜・三重・奈良・鳥取・徳島・佐賀・長崎・沖縄)

② 全体的にバランスのとれた出題内容でした。難易度も適切でした。(福島)

③ 全体的に基本的な問題が多く，良問であった。(千葉)

④ オーソドックスな出題が多く，日頃の学習成果があらわれる問題であった。しっかりと対策ができているかどうかで合否が分かれる難易度の問題であった。(京都)

⑤ 全体として４点の配点が高く，また配点箇所が少なくなるため，正答できた場所により合否に大きな影響がでる。(奈良)

⑥ 全体的に易しい問題であった。(島根)

⑦ 全商検定の目的に適った全体的に良問であった。(佐賀)

⑧ 出題範囲のすべてを網羅しており，良問であった。(熊本)

1 仕訳

① 勘定科目群において教科書に記載がないのであれば棚卸減耗損だけでよいのではないか。(福井)

b① 資料の与え方が,組別原価計算であるかのような形式であり,実際に多くの受験者がA組製品,B組製品という勘定科目で仕訳を切っていました。できれば，受験者が混乱しない製品名にしていただきたい。教科書では「A. B」を使わない配慮があるように思います。長年個別原価計算等では，A製品，B製品が用いられていましたが，これを機に変更していただけたら幸いです(埼玉)

② １(b)の問題文中に「A製品」「B製品」という表記があり，dは「A組製造」「B組製造」という表記の問題であったが，どちらも『A』『B』という記号で表記されており，紛らわしさを感じた。「A製品」「B製品」ではなく「甲製品」「乙製品」にするなど表記上の工夫をお願いしたい。(長野)

③ 個別原価計算の問題であったが，A組製品・B組製品と間違う生徒が多かった。(山口)

c① １(c)の仕訳が少し難しいと感じた。ここで総平均法，大問２で平均法，大問４で先入先出法なのでバランスはよい。他は良問。(香川)

f① 「当月の素材の実際消費高は予定消費高より￥9,000 多く」という表現に戸惑う受験生もあった。問題集では「実際消費高￥　　，予定消費高￥　　」という出題形式が多く，慣れていなかった。(鳥取)

2　総合原価計算

①　良問であった。(鳥取)

②　資料ｄで第１工程半製品の払出単価は示されているが，ただし書きに払出方法や前月繰越高を示す必要はないか。(岡山)

③　良問であった。文章を読み取ればできる(香川)

3　適語・計算

①　製造原価報告書の勘定口座形式は，苦手としている生徒が多かった(奈良)

②　金額計算に配点（３３点）は多くを占めすぎているのではないか。(佐賀)

(１)①　水道料の消費高を計算させる問題は９１回の出題内容と同一で，過去問題を解いている受験生はよくできていた。(鳥取)

(３)①　直接原価計算による利益計画の理解度を問う良問である。(茨城)

②　損益分岐点の問題はｂ，ｃの問題をよく読み取らないとできないかもしれない。(香川)

(４)①　ⅱこの文がなければ，固定費能率差異＋操業度差異も正解になるのでしょうか。(大分)

4　個別原価計算

①　第１製造部門と第２製造部門の予定配賦率が過去問と違い計算済み単価で記入されており，生徒が混乱している姿が見られた。しかし，「形式的な解き方・覚え方」ではなく，「意味を考えて計算する」ことの重要性を改めて感じた。(静岡)

②　良問であった。最後の賃金未払高は理解していないと難しい(香川)

(５)①　賃金未払高を求められない生徒が多かった。(山口)

〔将来の運営〕全国からのご意見

第９２回

① 併願受験者１級（会計・原価計算）の生徒がほとんどです。２級と原価計算の試験時間を入れ替えて頂けると助かります。（茨城）

② 学級閉鎖により，受験できなかった生徒への対応等の手続きについて。Web 上で的確な指示を提示してほしい。（茨城）

③ 今後，このような状況がいつまで続くかわかりませんが，昼食を挟んでの日程でなく，午前だけで終了するような日程を考えてほしい。各学校で違いはあると思いますが，マスクを外す昼食の時間は避けたい。（茨城）

第９３回

① 審査基準（解答冊子）に，他検定同様各級の問題も添付してほしい。問題残部がない場合，採点時に必要となるため。（北海道）

② 各金融機関で硬貨を取り扱う場合に手数料が発生しています。経費で処理して良いとは思いますが，電子決済や振込等で検定料を徴収する方法を導入することを検討してはいかがでしょうか。（岩手）

③ 検定の時期が集中し，日曜日開催のため，運動部の大会時期と重なることも多く，申込をしていても受験できないことがある。検定回数を増やすなど検討をお願いしたい。（岩手）

④ 学級閉鎖により，受験できなかった生徒への対応等の手続きについて。Web 上で的確な指示を提示してほしい。（茨城）

⑤ 今後，このような状況がいつまで続くかわかりませんが，昼食を挟んでの日程でなく，午前だけで終了するような日程を考えてほしい。各学校で違いはあると思いますが，マスクを外す昼食の時間は避けたい。（茨城）

⑥ 学級閉鎖・学年閉鎖・学校閉鎖の検定中止については，受験者への返金がある。今回の検定では，コロナ感染症の濃厚接触者・保健所からの出席停止等の指示で受験できない生徒がいた。この生徒に対する救済措置があってもよいのではないか。（栃木）

⑦ 全商英検のように問題用紙の袋の開封が容易に出来るのにならないか。（栃木）

⑧ 全国の簿記競技会の出題についてわかっていることを教えていただきたい。また，全国大会予選の問題を作成してくれるところを探しています。全商でなんとかなりませんか。（福井）

⑨ 今回のような新型コロナウイルス感染拡大の状況下での検定では，昼食時間をはさむことによって，さらに感染症対策に細心の注意を払わなければならなかった。具体的には会計の試験終了後，原価計算の試験開始までに昼食時間をはさむことにより，机のアルコール消毒，黙食の徹底などの対策を講じなければならなかった。会計の試験終了後，20 分ほどの時間をおいて原価計算の試験を実施することができれば 12:30 前には検定試験を

終了し，昼食時間を確保せずに生徒を帰宅させることができる。昼食時間をはさむリスクを回避するために，このような状況下での検定実施の場合は各県ごとや各校ごと試験時間を変更し実施することができないか是非とも検討をお願いしたい。（長野）

⑩　コロナ禍において，受験できない生徒がいた。学級閉鎖・学年閉鎖などでないと返金できないのではなく柔軟に対応して欲しい。（静岡）

⑪　３級は日商簿記検定のように，試験時間が 60 分で終わるように変更はできないか。（静岡）

⑫　検定当日の本部校担当者への事務費について，試験場校の経費から支出するのではなく本部校経費からの支出にすべきだ。（今回，検定中止があり，試験場校経費から支出することが難しい場合か，受験者が少なく本部校のある試験場校経費が足りない場合や，検定中止が当日となり，中止に関する事務処理に来た者への事務手当を，本部校の試験場校経費で支出するのは難しい場合などが考えられる。）（岐阜）

⑬　公共交通機関の乱れ等による本人の事情に由来しない遅刻について，可能な範囲内での終了時間延長等の配慮が検討できないか。（京都）

⑭　少子化の進む地域における試験場，分会場の人数規定の見直しが検討できないか。近場の試験場校がなく１００キロ以上の移動が必要となったケースもあった。（京都）

⑮　１級会計から２級までの時間が短い。試験委員の少ない学校では監督者が間に合わず，作業ミスが出る可能性がある。（大阪）

⑯　Web システムの手当明細 PDF が表示されなかったので戸惑った。時間をおき，何度かアクセスすると表示ができるようになった。要因が不明であった。（愛媛）

⑰　新型コロナウイルス感染拡大に伴う学校閉鎖等によって，受験機会を失う生徒もいた。日商簿記検定のようなネット試験（ＣＢＴ方式）の導入については，簡単に進む話ではないかもしれないが，今後を見据え，できる限り導入を前倒しで検討するなど，対応いただけるとありがたい。（熊本）

⑱　コロナの感染状況により，学級閉鎖等があった場合は受験ができなくなるため，特に３年生の進路に係わることが考えられる。もし，受験できなかったことで推薦基準を満たさず不利になる生徒が出る場合は，全商が証明書等を発行し，進路で不利にならないような対策をお願いしたい。（宮崎）

⑲　アンケートと満点合格の締め切りを他の検定と同様に，合格者数報告と同じ日程で実施要項に記載して欲しい。（鹿児島）

⑳　本部校への問題送付時に，本部校用と試験場校用は別で送付して欲しい。（鹿児島）

第93回　簿記実務検定試験誤答調査一覧表

3　級		
第９３回（調査数　1,000　人）		
	問　題	誤答数
1 仕訳	a．普通預金への現金預け入れ	40
	b．商品の掛け仕入れ（取引運賃込み）	209
	c．有価証券の買い入れ	96
	d．水道光熱費の現金払い	52
	e．仮受金の処理（売掛金の回収）	322
	f．従業員立替金現金払い	192
	g．固定資産の売却	214
	h．私用のため店の現金引き出し	156
2 伝票	出金伝票　No.27　租税公課（固定資産税）　広島市役所　39,000	158
	振替伝票　4/20　当座預金　650,000　／　受取手形　650,000	174
3 仕訳帳・元帳・補助簿	(1) 仕　訳　帳 1/25･･(受取手形)480,000／(売掛金)･･4･･480,000	112
	現　金　勘　定　1/20　買掛金　1　240,000	58
	売 掛 金 勘 定 27･･･690,000	72
	(2) 売　上　帳 14･･･秋田商店　Ａ品　10個　@¥1,200･･･12,000	73
	売　上　帳　1,038,000	185
	売 掛 金 元 帳（山形商店）31　…　780,000	155
	（秋田商店）12　…　360,000	74
4 補助簿・計算・適語	(1) 1（貸借平均の原理）	396
	(2) a　¥6,200,000	262
	b　¥5,496,000	444
	(3) a　¥　8,500	149
	b　¥　34,600	611
5 決算	(1) 精　算　表 貸倒引当金　16,000	218
	備　品　780,000	136
	仕　入　4,085,000	181
	雑　損　2,000	186
	当期純利益　830,000	321
	(2) 売　上　勘　定（借方）12/31　損　益　6,536,000	399
７０点以上の合格者数		765
６０点台の不合格者数		85

2 級			
第９３回（調査数　1,000　人）			
	問	題	誤答数
1 仕訳	a	未着商品(貨物代表証券と引き換え)	213
	b	不渡手形(回収)	385
	c	本支店間取引(当期純損失の計上)	411
	d	株式の発行(設立)	128
	e	利益処分	126
	f	社債の買入償還	370
	g	法人税等の計上	99
2 特殊仕訳帳	売上帳	17 … 売掛金　東京商店 … 売2 … 400,000 B品　500個　@¥800	57
		純売上高　1,073,000	105
	商品有高帳	1/17（東京商店）100…490…49,000 400…510…204,000	371
		20(埼玉商店)　700…510…357,000	181
	総勘定元帳	受取手形　(借方)　10　…… 300,000	122
		売上　(貸方)　1/31 ……1,090,000	131
	売掛金元帳	千葉商店　(貸方)　1/12　……　17,000	90
	(2)C品の商品売買益	44,000	638
3 計算	(1) ①	100,000	594
	②	140,000	692
	(2) a	556,000	313
	b	483,000	228
	(3) a．（ア）	788,000	138
	（イ）	5,220,000	201
	b．	450,000	416
	(4)	490,000	676
4 決算	損益勘定	仕入　13,975,000	361
		貸倒引当金繰入　32,000	469
		消耗品費　26,000	115
		有価証券評価益　48,000	115
	貸借対照表	前払保険料　168,000	112
		備品の帳簿価額　1,092,000	196
		未払利息　3,000	127
	（資本金）（当期純利益）［損益勘定と貸借対照表の両方で］	523,000	670
		７０点以上の合格者数	626
		６０点～６９点の不合格者数	145

会　　計		
第93回（調査数1000人）		
	問　　題	誤答数
1 仕訳	a 手形の裏書譲渡(保証債務の計上)	548
	b．売買目的有価証券の売却	461
	c．鉱業権償却(生産高比例法)	172
	d．仕入割引	72
	e．社債の買入償還	425
	f．建物の完成（新築積立金の取り崩し）	409
	g．新株式の発行(株式交付費の支払い)	208
2 分析	（1）① ア　140%	231
	イ　120%	228
	ウ　30%	176
	エ　12%	184
	オ　4%	242
	カ　3回	276
	キ　20%	327
	② B社の貸借対照表の商品(ク)の金額　2,900千円	441
	③　1	390
	（2）　￥ 1,710,000	274
	（3） 連結損益計算書ののれん償却　400千円	744
	連結株主資本等変動計算書の利益剰余金当期末残高　97,200千円	764
	連結貸借対照表の土地　27,000千円	466
	連結貸借対照表の非支配株主持分　28,400千円	772
3 適語	a．ア．　1（正規の簿記）	143
	イ．　9（複式簿記）	387
	b．ウ．　5（重要性）	492
	エ．　6（費用）	206
4 損益・貸借	（1）損益計算書の作成　売上原価の金額・・・・・・・・・（ 74,755,000）	215
	(貸倒引当金繰入)・・・・・・・・（ 32,000）	212
	保険料の金額・・・・・・・・・・・（ 300,000）	461
	(有価証券評価損)・・・・・・・・（ 320,000）	666
	当期純利益の金額・・・・・・・（ 3,718,000）	811
	（2）貸借対照表の作成　(未収収益)・・・・・・・・・・・・・・（ 3,000）	678
	備品勘定の残高・・・・・・・・・（ 2,250,000）	263
	(投資有価証券)・・・・・・・・・・・（ 7,760,000）	374
	（3）貸借対照表に記載する流動負債合計　￥ 9,347,000	697
70点以上の合格者数		454
60点台の不合格者数		182

原　価　計　算

第９３回（調査数　1,000 人）

	問題	誤答数
1 仕訳	a．特許権使用料（月割経費）の計上　（単純総合原価計算）	189
	b．製品の販売　（個別原価計算）	487
	c．素材勘定の残高の修正	436
	d．組間接費の配賦　（組別総合原価計算）	177
	e．工場会計の独立　減価償却費の計上　（本社の仕訳）	592
	f．材料消費価格差異勘定を売上原価に振り替え	404
2 総合原価計算	(1) 工程別総合原価計算表　第１工程　工程単価　4,680	195
	第２工程　補助部門費配賦額　624,000	201
	(2) 第２工程の月末仕掛品原価に含まれる前工程費　2,260,000	414
	(3) 第１工程半製品勘定の貸方　売上原価　920,000	300
3 適語・計算	(1)　a．当期材料費　2,488,000	272
	b．当期労務費　2,808,000	411
	c．当期製品製造原価　5,748,000	444
	(2)　２級製品の製品単価　1,600	218
	(3)　a．損益分岐点の売上高　7,200,000	219
	b．目標営業利益を達成するための販売数量　3,640 個	396
	c．変動製造費が増加した場合の損益分岐点の売上高　7,350,000	340
	(4)　a．月末仕掛品の標準原価　920,000	362
	b．作業時間差異　45,000（有利）	349
	c．操業度差異　60,000（不利）	472
	(5)　ア．（４．費目別 ） イ．（２．製品別 ）	581
4 個別原価計算	(1) 1/31⑨　（借）賃率差異　13,000　（貸）消費賃金　13,000	319
	(2) 素材勘定の貸方　1/11 … 製造 … 2,290,000	254
	製造間接費勘定の借方　工場消耗品 …　147,000	277
	製造間接費勘定の借方　健康保険料 …　283,000	277
	第１製造部門費勘定の貸方　製造部門費配賦差異 …　6,000	437
	(3) 原価計算表（＃１）の製造間接費　第２ … 870 … 600 … 522,000	143
	原価計算表（＃１）の製品単価　98,000	204
	(4) 部門費振替表　第２製造部門　第２次配賦額　10,000	216
	(5) １月末の賃金未払高　1,505,000	728
	７０点以上の合格者数	547
	６０点台の不合格者数	90

令和3年度 第92回・第93回簿記実務検定試験　第1級満点賞受賞者数一覧

No	都道府県	学　校　名	表彰者数	
			92回	93回
1	北海道	北海道帯広南商業高等学校		1
2	宮城	仙台市立仙台商業高等学校		2
3		宮城県大河原商業高等学校		1
4	山形	山形市立商業高等学校		1
5	福島	福島県立郡山商業高等学校		1
6	栃木	栃木県立宇都宮商業高等学校		3
7		栃木県立栃木商業高等学校		1
8	千葉	千葉県立東金商業高等学校		1
9	神奈川	横浜市立横浜商業高等学校		2
10	新潟	新潟県立新潟商業高等学校		1
11	静岡	静岡県立浜松商業高等学校		2
12		静岡市立清水桜が丘高等学校		1

No	都道府県	学　校　名	表彰者数	
			92回	93回
13	愛知	愛知県立愛知商業高等学校		1
14		愛知県立一宮商業高等学校	3	
15		愛知県立津島北高等学校		1
16		愛知県立岡崎商業高等学校		2
17		愛知県立碧南高等学校		1
18		愛知県立成章高等学校		1
19		名古屋市立名古屋商業高等学校		1
20	岐阜	関市立関商工高等学校		1
21	三重	三重県立四日市商業高等学校		1
22		三重県立松阪商業高等学校		1
23	滋賀	滋賀県立大津商業高等学校		1
24		滋賀県立国際情報高等学校		1
25	和歌山	和歌山県立和歌山商業高等学校		1
26	山口	山口県立防府商工高等学校		1
27		山口県立柳井商工高等学校		1
28	愛媛	愛媛県立今治北高等学校		1
合 計			3	33

令和3年度 第92回 簿記実務検定試験申込者数･受験者数･合格者数集計表

令和3年6月27日(日)実施

No.	都道府県	試験場校数	分会場校数	種別	1級 会計 高校	1級 会計 一般	1級 原計 高校	1級 原計 一般	2級 高校	2級 一般	3級 高校	3級 一般	合計 高校	合計 一般	1級合格 同一回 高校	1級合格 同一回 一般	1級合格 4回以内 高校	1級合格 4回以内 一般
1	北海道	29	25	申込	615	2	570	2	499	0	282	2	1,966	6	10	0	137	1
				受験	581	2	531	1	449	0	239	2	1,800	5	10		138	
				合格	189	1	239	0	116	0	105	1	649	2				
2	青森県	11	7	申込	182	0	203	0	287	0	170	2	842	2	7	0	36	0
				受験	164	0	189	0	272	0	151	2	776	2	7		36	
				合格	35	0	86	0	78	0	80	0	279	0				
3	岩手県	14	3	申込	282	0	255	0	349	0	402	0	1,288	0	1	13	97	0
				受験	274	0	249	0	337	0	379	0	1,239	0	14		97	
				合格	45	0	115	0	65	0	229	0	454	0				
4	宮城県	13	3	申込	115	3	84	0	164	0	116	3	479	6	7	0	28	0
				受験	101	0	78	0	152	0	99	1	430	1	7		28	
				合格	36	0	47	0	52	0	41	1	176	1				
5	秋田県	11	6	申込	102	0	173	0	117	0	142	0	534	0	1	0	10	0
				受験	100	0	165	0	116	0	140	0	521	0	1		10	
				合格	19	0	78	0	36	0	92	0	225	0				
6	山形県	10	5	申込	254	0	375	0	402	0	181	0	1,212	0	93	0	24	0
				受験	247	0	371	0	397	0	177	0	1,192	0	93		24	
				合格	100	0	241	0	254	0	140	0	735	0				
7	福島県	18	6	申込	272	2	567	1	414	1	248	5	1,501	9	5	0	85	0
				受験	242	2	538	1	396	1	199	5	1,375	9	5		85	
				合格	68	0	328	0	147	1	55	4	598	5				
8	茨城県	18	1	申込	596	0	1,172	0	305	0	168	0	2,241	0	82	0	137	0
				受験	556	0	1,117	0	296	0	153	0	2,122	0	82		137	
				合格	218	0	546	0	125	0	43	0	932	0				
9	栃木県	17	3	申込	526	0	1,092	0	170	0	241	1	2,029	1	40	0	184	0
				受験	514	0	1,068	0	162	0	225	1	1,969	1	40		184	
				合格	162	0	678	0	51	0	143	0	1,034	0				
10	群馬県	11	4	申込	961	0	1,046	0	102	0	121	10	2,230	10	43	0	155	0
				受験	917	0	1,007	0	99	0	116	10	2,139	10	43		155	
				合格	284	0	542	0	61	0	61	4	948	4				
11	埼玉県	25	2	申込	874	0	636	0	773	2	500	3	2,783	5	17	0	214	0
				受験	832	0	594	0	740	2	470	3	2,636	5	17		214	
				合格	297	0	254	0	315	1	218	0	1,084	1				
12	千葉県	17	2	申込	151	3	250	3	263	0	220	0	884	6	8	1	55	1
				受験	135	3	236	1	240	0	207	0	818	4	9		56	
				合格	32	2	142	1	136	0	106	0	416	3				
13	山梨県	6	1	申込	189	0	111	0	152	0	27	0	479	0	9	0	28	0
				受験	170	0	104	0	141	0	27	0	442	0	9		28	
				合格	35	0	47	0	55	0	20	0	157	0				
14	東京都	18	4	申込	263	0	307	1	537	0	522	1	1,629	2	12	0	34	0
				受験	220	0	256	1	485	0	473	1	1,434	2	12		34	
				合格	39	0	101	0	167	0	196	0	503	0				
15	神奈川県	8	1	申込	199	1	151	17	107	0	29	5	486	23	3	0	41	0
				受験	162	1	124	0	104	0	28	5	418	6	3		41	
				合格	36	0	39	0	53	0	15	4	143	4				
16	新潟県	12	1	申込	406	0	485	0	130	0	31	0	1,052	0	4	0	35	0
				受験	382	0	469	0	127	0	28	0	1,006	0	4		35	
				合格	121	0	289	0	47	0	14	0	471	0				
17	富山県	8	3	申込	205	6	325	0	204	2	70	2	804	10	5	0	49	0
				受験	196	5	308	0	193	1	67	2	764	8	5		49	
				合格	22	0	164	0	46	1	26	2	258	3				

No.	都道府県	試験場校数	分会場校数	種別	1級 会計 高校	1級 会計 一般	1級 原計 高校	1級 原計 一般	2級 高校	2級 一般	3級 高校	3級 一般	合計 高校	合計 一般	1級合格 同一回 高校	1級合格 同一回 一般	1級合格 4回以内 高校	1級合格 4回以内 一般
18	石川県	7	8	申込	83	0	615	2	80	0	55	0	833	2	2	0	39	0
				受験	76	0	602	0	72	0	53	0	803	0	2		39	
				合格	11	0	392	0	19	0	25	0	447	0				
19	福井県	8	3	申込	150	1	156	0	167	1	103	0	576	2	2	0	37	1
				受験	138	1	137	0	156	1	91	0	522	2	2		38	
				合格	33	1	53	0	53	1	26	0	165	2				
20	長野県	12	3	申込	387	0	826	0	54	0	29	0	1,296	0	31	0	65	0
				受験	343	0	792	0	51	0	26	0	1,212	0	31		65	
				合格	72	0	346	0	15	0	7	0	440	0				
21	静岡県	23	2	申込	568	0	542	0	358	0	211	1	1,679	1	13	0	177	0
				受験	540	0	510	0	346	0	202	1	1,598	1	13		177	
				合格	192	0	266	0	159	0	95	0	712	0				
22	愛知県	38	5	申込	691	8	612	2	571	1	348	3	2,222	14	101	1	187	5
				受験	636	8	559	2	526	1	313	3	2,034	14	102		192	
				合格	288	6	315	1	251	0	87	2	941	9				
23	岐阜県	19	11	申込	478	0	975	1	332	0	92	8	1,877	9	43	0	185	0
				受験	461	0	922	1	321	0	88	6	1,792	7	43		185	
				合格	215	0	606	1	151	0	46	3	1,018	4				
24	三重県	9	6	申込	154	0	138	0	285	0	161	4	738	4	2	0	88	0
				受験	149	0	133	0	278	0	155	4	715	4	2		88	
				合格	88	0	93	0	222	0	70	4	473	4				
25	滋賀県	7	0	申込	245	0	143	0	223	0	118	0	729	0	3	0	39	0
				受験	228	0	129	0	203	0	100	0	660	0	3		39	
				合格	103	0	55	0	98	0	50	0	306	0				
26	京都府	6	1	申込	98	1	46	1	119	0	174	2	437	4	1	1	11	0
				受験	94	1	45	1	110	0	149	2	398	4	2		11	
				合格	32	1	25	1	29	0	40	1	126	3				
27	大阪府	15	0	申込	345	1	506	0	874	9	209	2	1,934	12	8	0	67	0
				受験	303	1	463	0	770	5	164	2	1,700	8	8		67	
				合格	78	0	261	0	336	0	49	2	724	2				
28	兵庫県	27	4	申込	1,234	1	1,174	1	461	0	931	16	3,800	18	15	0	301	0
				受験	1,165	1	1,096	0	440	0	895	15	3,596	16	15		301	
				合格	351	0	568	0	282	0	689	7	1,890	7				
29	奈良県	4	3	申込	127	0	95	0	86	0	61	0	369	0	1	0	48	0
				受験	119	0	84	0	82	0	60	0	345	0	1		48	
				合格	37	0	36	0	31	0	49	0	153	0				
30	和歌山県	6	4	申込	51	0	52	0	207	0	57	2	367	2	1	0	15	0
				受験	29	0	35	0	186	0	47	2	297	2	1		15	
				合格	3	0	18	0	120	0	22	0	163	0				
31	鳥取県	3	3	申込	78	0	85	0	189	0	24	0	376	0	6	0	35	0
				受験	72	0	72	0	185	0	22	0	351	0	6		35	
				合格	23	0	35	0	141	0	12	0	211	0				
32	島根県	7	1	申込	92	0	78	0	229	2	73	18	472	20	1	0	14	0
				受験	79	0	68	0	219	2	65	18	431	20	1		14	
				合格	40	0	23	0	88	0	5	8	156	8				
33	岡山県	20	0	申込	500	0	1,469	0	184	5	191	0	2,344	5	25	0	75	0
				受験	453	0	1,410	0	145	4	150	0	2,158	4	25		75	
				合格	127	0	914	0	40	2	54	0	1,135	2				
34	広島県	14	0	申込	269	0	510	1	269	1	230	4	1,278	6	1	0	50	1
				受験	223	0	464	1	242	1	211	3	1,140	5	1		51	
				合格	23	0	217	1	86	1	130	2	456	4				
35	山口県	15	2	申込	189	1	247	1	387	7	162	2	985	11	3	0	71	0
				受験	173	1	222	1	377	7	153	2	925	11	3		71	
				合格	64	0	108	1	202	2	69	2	443	5				
36	香川県	11	3	申込	370	0	229	0	265	0	172	0	1,036	0	2	0	220	0
				受験	357	0	220	0	250	0	154	0	981	0	2		220	
				合格	175	0	163	0	158	0	74	0	570	0				

No.	都道府県	試験場校数	分会場校数	種別	1級 会計 高校	1級 会計 一般	1級 原計 高校	1級 原計 一般	2級 高校	2級 一般	3級 高校	3級 一般	合計 高校	合計 一般	1級合格 同一回 高校	1級合格 同一回 一般	1級合格 4回以内 高校	1級合格 4回以内 一般
37	徳島県	6	5	申込	61	0	123	0	86	0	53	0	323	0	3	0	4	0
				受験	58	0	114	0	84	0	48	0	304	0	3		4	
				合格	15	0	25	0	47	0	13	0	100	0				
38	愛媛県	16	10	申込	376	2	764	0	355	0	334	0	1,829	2	13	0	177	0
				受験	350	0	733	0	338	0	290	0	1,711	0	13		177	
				合格	121	0	398	0	189	0	188	0	896	0				
39	高知県	4	8	申込	69	0	154	0	32	0	45	0	300	0	0	0	25	0
				受験	58	0	150	0	27	0	44	0	279	0	0		25	
				合格	13	0	119	0	10	0	33	0	175	0				
40	福岡県	32	1	申込	557	1	1,216	2	667	2	573	8	3,013	13	16	0	149	0
				受験	513	1	1,137	2	625	2	512	7	2,787	12	16		149	
				合格	137	0	550	0	279	1	195	6	1,161	7				
41	佐賀県	9	2	申込	282	0	123	1	234	0	124	0	763	1	28	0	38	1
				受験	268	0	120	1	221	0	103	0	712	1	28		39	
				合格	82	0	63	1	52	0	35	0	232	1				
42	長崎県	18	9	申込	309	0	641	0	428	0	140	0	1,518	0	1	0	56	0
				受験	290	0	612	0	401	0	129	0	1,432	0	1		56	
				合格	109	0	411	0	112	0	67	0	699	0				
43	熊本県	18	5	申込	191	0	715	0	222	0	225	0	1,353	0	2	0	117	0
				受験	179	0	704	0	204	0	203	0	1,290	0	2		117	
				合格	38	0	387	0	70	0	68	0	563	0				
44	大分県	15	4	申込	224	0	260	0	292	0	160	0	936	0	4	0	52	0
				受験	217	0	247	0	277	0	151	0	892	0	4		52	
				合格	74	0	159	0	141	0	79	0	453	0				
45	宮崎県	19	0	申込	282	0	782	0	292	1	233	0	1,589	1	9	0	52	0
				受験	267	0	766	0	276	1	189	0	1,498	1	9		52	
				合格	47	0	378	0	74	1	99	0	598	1				
46	鹿児島県	32	8	申込	442	0	831	0	858	18	585	17	2,716	35	21	0	120	0
				受験	420	0	804	0	812	18	534	15	2,570	33	21		120	
				合格	108	0	356	0	272	5	228	7	964	12				
47	沖縄県	8	1	申込	85	0	87	0	301	0	281	1	754	1	1	0	12	0
				受験	60	0	59	0	233	0	216	1	568	1	1		12	
合計		674	189	合格	14	0	11	0	63	0	59	1	147	1				
合計				申込	15,212		22,032		14,134		9,746		61,124		706	16	3,875	10
					15,179	33	21,996	36	14,082	52	9,624	122	60,881	243				
				受験	14,138		20,826		13,209		8,808		56,981					
					14,111	27	20,813	13	13,163	46	8,695	113	56,782	199	722		3,885	
				合格	4,462		11,294		5,610		4,308		25,674					
					4,451	11	11,287	7	5,594	16	4,247	61	25,579	95				
受験率				受／申	92.9%		94.5%		93.5%		90.4%		93.2%					
					93.0%	81.8%	94.6%	36.1%	93.5%	88.5%	90.3%	92.6%	93.3%	81.9%				
合格率				合／受	31.6%		54.2%		42.5%		48.9%		45.1%					
					31.5%	40.7%	54.2%	53.8%	42.5%	34.8%	48.8%	54.0%	45.0%	47.7%				
第90回合格率				合／受	25.5%		53.7%		34.5%		42.3%		38.6%					
					25.4%	38.5%	53.8%	38.5%	34.5%	71.4%	42.2%	47.9%	38.6%	46.9%				

令和3年度 第93回 簿記実務検定試験申込者数･受験者数･合格者数集計表

令和4年1月23日(日)実施

No.	都道府県	試験場校数	分会場校数	種別	1級 会計 高校	1級 会計 一般	1級 原計 高校	1級 原計 一般	2級 高校	2級 一般	3級 高校	3級 一般	合計 高校	合計 一般	1級合格 同一回 高校	1級合格 同一回 一般	1級合格 4回以内 高校	1級合格 4回以内 一般
1	北海道	39	42	申込	1,144	0	1,153	2	1,854	0	1,365	1	5,516	3	124	0	268	3
				受験	1,007	0	1,009	2	1,722	0	1,253	0	4,991	2	124		271	
				合格	311	0	514	0	754	0	784	0	2,363	0				
2	青森県	11	11	申込	471	1	462	6	392	0	472	0	1,797	7	97	0	44	0
				受験	454	1	444	6	377	0	436	0	1,711	7	97		44	
				合格	160	0	231	0	84	0	235	0	710	0				
3	岩手県	16	3	申込	617	0	669	0	709	0	344	0	2,339	0	81	0	102	0
				受験	601	0	653	0	682	0	322	0	2,258	0	81		102	
				合格	181	0	291	0	231	0	143	0	846	0				
4	宮城県	17	3	申込	520	1	435	0	642	0	438	0	2,035	1	104	0	45	0
				受験	461	1	393	0	587	0	382	0	1,823	1	104		45	
				合格	146	0	263	0	381	0	227	0	1,017	0				
5	秋田県	17	6	申込	198	0	243	0	277	0	322	0	1,040	0	22	0	46	0
				受験	191	0	233	0	269	0	302	0	995	0	22		46	
				合格	66	0	120	0	80	0	177	0	443	0				
6	山形県	11	8	申込	479	0	532	0	353	0	548	1	1,912	1	102	0	44	0
				受験	451	0	510	0	343	0	528	1	1,832	1	102		44	
				合格	161	0	228	0	188	0	405	1	982	1				
7	福島県	25	0	申込	722	0	509	2	1,015	9	978	2	3,224	13	39	0	217	1
				受験	672	0	472	2	974	8	923	2	3,041	12	39		218	
				合格	303	0	221	2	493	4	604	1	1,621	7				
8	茨城県	23	0	申込	981	0	685	0	828	0	533	0	3,027	0	82	0	266	0
				受験	934	0	635	0	806	0	495	0	2,870	0	82		266	
				合格	311	0	281	0	437	0	300	0	1,329	0				
9	栃木県	19	2	申込	1,163	0	623	0	797	0	953	2	3,536	2	82	0	401	0
				受験	1,096	0	563	0	768	0	866	1	3,293	1	82		401	
				合格	489	0	222	0	481	0	497	1	1,689	1				
10	群馬県	16	3	申込	1,107	0	1,112	0	261	0	929	1	3,409	1	46	0	392	0
				受験	1,028	0	1,014	0	241	0	854	0	3,137	0	46		392	
				合格	246	0	475	0	88	0	597	0	1,406	0				
11	埼玉県	34	1	申込	922	0	1,612	0	1,900	0	1,990	0	6,424	0	146	0	227	0
				受験	833	0	1,498	0	1,724	0	1,840	0	5,895	0	146		227	
				合格	283	0	842	0	720	0	1,200	0	3,045	0				
12	千葉県	20	6	申込	1,039	0	891	0	1,011	0	1,142	3	4,083	3	181	0	84	0
				受験	969	0	825	0	935	0	1,048	3	3,777	3	181		84	
				合格	331	0	386	0	417	0	795	3	1,929	3				
13	山梨県	9	2	申込	280	0	388	0	387	0	176	0	1,231	0	38	0	26	0
				受験	268	0	361	0	368	0	165	0	1,162	0	38		26	
				合格	72	0	168	0	113	0	96	0	449	0				
14	東京都	21	4	申込	606	1	511	1	1,223	2	1,699	2	4,039	6	48	0	42	0
				受験	499	0	424	0	1,107	1	1,528	1	3,558	2	48		42	
				合格	103	0	126	0	446	1	993	0	1,668	1				
15	神奈川県	14	0	申込	551	0	602	0	518	0	680	6	2,351	6	119	0	17	0
				受験	466	0	515	0	488	0	616	3	2,085	3	119		17	
				合格	153	0	257	0	279	0	369	2	1,058	2				
16	新潟県	20	4	申込	762	0	728	0	1,052	0	444	0	2,986	0	84	0	258	0
				受験	699	0	684	0	992	0	420	0	2,795	0	84		258	
				合格	264	0	365	0	618	0	247	0	1,494	0				
17	富山県	9	4	申込	755	4	604	0	652	1	80	2	2,091	7	127	0	90	0
				受験	729	3	578	0	640	1	77	2	2,024	6	127		90	
				合格	217	1	272	0	362	0	34	2	885	3				

No.	都道府県	試験場校数	分会場校数	種別	1級 会計 高校	1級 会計 一般	1級 原計 高校	1級 原計 一般	2級 高校	2級 一般	3級 高校	3級 一般	合計 高校	合計 一般	1級合格 同一回 高校	1級合格 同一回 一般	1級合格 4回以内 高校	1級合格 4回以内 一般
18	石川県	12	5	申込	504	0	107	0	596	0	286	0	1,493	0	4	0	206	0
				受験	485	0	87	0	575	0	247	0	1,394	0	4		206	
				合格	226	0	17	0	365	0	127	0	735	0				
19	福井県	7	3	申込	471	0	501	1	546	0	325	0	1,843	1	166	0	27	0
				受験	453	0	484	1	526	0	306	0	1,769	1	166		27	
				合格	205	0	321	1	349	0	204	0	1,079	1				
20	長野県	15	5	申込	672	1	493	1	165	0	649	0	1,979	2	29	0	105	0
				受験	582	1	442	1	160	0	594	0	1,778	2	29		105	
				合格	161	0	163	0	60	0	365	0	749	0				
21	静岡県	30	2	申込	1,258	1	1,539	2	1,768	1	1,403	1	5,968	5	248	0	174	0
				受験	1,143	1	1,360	1	1,590	1	1,264	1	5,357	4	248		174	
				合格	407	0	695	0	787	0	910	1	2,799	1				
22	愛知県	41	3	申込	1,769	0	1,843	0	2,508	0	1,987	3	8,107	3	522	0	188	0
				受験	1,653	0	1,732	0	2,347	0	1,826	2	7,558	2	522		188	
				合格	760	0	1,197	0	1,284	0	1,275	0	4,516	0				
23	岐阜県	21	11	申込	1,298	0	777	0	1,315	0	799	0	4,189	0	181	0	314	0
				受験	1,236	0	740	0	1,246	0	765	0	3,987	0	181		314	
				合格	535	0	430	0	680	0	552	0	2,197	0				
24	三重県	17	6	申込	388	0	458	0	625	2	866	2	2,337	4	130	0	89	0
				受験	372	0	433	0	596	1	826	1	2,227	2	130		89	
				合格	223	0	323	0	383	0	669	0	1,598	0				
25	滋賀県	9	0	申込	376	0	518	0	414	0	578	0	1,886	0	77	0	94	0
				受験	342	0	480	0	388	0	551	0	1,761	0	77		94	
				合格	109	0	279	0	155	0	436	0	979	0				
26	京都府	7	2	申込	128	0	177	0	277	0	446	0	1,028	0	16	0	36	0
				受験	123	0	168	0	242	0	387	0	920	0	16		36	
				合格	31	0	84	0	75	0	196	0	386	0				
27	大阪府	16	0	申込	811	0	658	0	1,259	8	1,654	19	4,382	27	82	0	127	0
				受験	655	0	488	0	960	5	1,388	13	3,491	18	82		127	
				合格	228	0	181	0	293	4	669	8	1,371	12				
28	兵庫県	30	7	申込	1,156	0	1,253	1	898	3	937	7	4,244	11	121	0	386	0
				受験	1,008	0	1,115	1	784	2	853	5	3,760	8	121		386	
				合格	379	0	608	0	244	1	593	4	1,824	5				
29	奈良県	4	0	申込	439	0	526	0	214	0	355	0	1,534	0	148	0	6	0
				受験	409	0	497	0	208	0	335	0	1,449	0	148		6	
				合格	158	0	299	0	148	0	285	0	890	0				
30	和歌山県	10	0	申込	203	1	231	0	273	0	725	1	1,432	2	106	0	1	0
				受験	195	1	216	0	253	0	655	1	1,319	2	106		1	
				合格	111	1	143	0	110	0	508	1	872	2				
31	鳥取県	6	2	申込	266	0	254	0	156	0	252	0	928	0	83	0	7	0
				受験	246	0	245	0	144	0	244	0	879	0	83		7	
				合格	107	0	114	0	40	0	190	0	451	0				
32	島根県	8	6	申込	418	0	384	0	630	0	375	0	1,807	0	77	0	40	0
				受験	404	0	367	0	600	0	352	0	1,723	0	77		40	
				合格	104	0	217	0	286	0	221	0	828	0				
33	岡山県	22	2	申込	1,541	0	667	2	1,325	9	255	10	3,788	21	104	0	659	0
				受験	1,454	0	598	2	1,239	8	189	7	3,480	17	104		659	
				合格	729	0	295	0	738	1	95	4	1,857	5				
34	広島県	14	1	申込	702	0	400	0	696	0	477	0	2,275	0	45	0	86	0
				受験	594	0	331	0	618	0	449	0	1,992	0	45		86	
				合格	175	0	143	0	140	0	218	0	676	0				
35	山口県	15	2	申込	636	4	663	1	546	2	436	22	2,281	29	269	0	47	1
				受験	615	2	627	0	530	2	410	16	2,182	20	269		48	
				合格	329	1	418	0	299	0	281	7	1,327	8				
36	香川県	15	2	申込	424	0	196	0	208	0	588	0	1,416	0	2	0	65	0
				受験	406	0	192	0	189	0	539	0	1,326	0	2		65	
				合格	222	0	87	0	94	0	398	0	801	0				

No.	都道府県	試験場校数	分会場校数	種別	1級 会計 高校	1級 会計 一般	1級 原計 高校	1級 原計 一般	2級 高校	2級 一般	3級 高校	3級 一般	合計 高校	合計 一般	1級合格 同一回 高校	1級合格 同一回 一般	1級合格 4回以内 高校	1級合格 4回以内 一般
37	徳島県	9	0	申込	52	0	110	0	70	1	274	0	506	1	13	0	1	0
				受験	51	0	104	0	68	1	249	0	472	1	13		1	
				合格	19	0	17	0	13	0	161	0	210	0				
38	愛媛県	22	10	申込	766	0	454	8	615	0	844	7	2,679	15	17	0	161	0
				受験	722	0	411	0	572	0	791	3	2,496	3	17		161	
				合格	228	0	170	0	230	0	531	1	1,159	1				
39	高知県	5	10	申込	184	0	58	0	104	0	238	0	584	0	3	0	94	0
				受験	170	0	50	0	77	0	214	0	511	0	3		94	
				合格	97	0	16	0	22	0	131	0	266	0				
40	福岡県	36	0	申込	1,029	1	960	1	1,211	1	1,297	3	4,497	6	51	0	260	0
				受験	934	1	852	1	1,037	1	1,158	2	3,981	5	51		260	
				合格	340	0	402	1	367	1	712	2	1,821	4				
41	佐賀県	12	0	申込	453	0	622	0	753	2	286	0	2,114	2	57	0	69	0
				受験	435	0	597	0	690	2	253	0	1,975	2	57		69	
				合格	117	0	318	0	394	1	198	0	1,027	1				
42	長崎県	23	3	申込	651	0	318	0	1,069	0	511	0	2,549	0	2	0	344	0
				受験	613	0	290	0	1,004	0	459	0	2,366	0	2		344	
				合格	284	0	124	0	498	0	269	0	1,175	0				
43	熊本県	20	2	申込	605	1	369	1	740	1	597	1	2,311	4	12	0	183	0
				受験	538	1	324	1	684	1	556	0	2,102	3	12		183	
				合格	190	0	120	0	315	1	316	0	941	1				
44	大分県	18	2	申込	515	0	361	0	655	0	663	0	2,194	0	21	0	110	0
				受験	473	0	341	0	613	0	613	0	2,040	0	21		110	
				合格	156	0	169	0	341	0	399	0	1,065	0				
45	宮崎県	15	0	申込	658	0	323	0	549	0	479	0	2,009	0	10	0	192	0
				受験	622	0	294	0	520	0	402	0	1,838	0	10		192	
				合格	210	0	90	0	170	0	259	0	729	0				
46	鹿児島県	31	8	申込	1,046	0	942	3	1,226	14	1,041	17	4,255	34	77	0	134	0
				受験	958	0	822	3	1,117	10	904	14	3,801	27	77		134	
				合格	271	0	278	0	330	8	414	6	1,293	14				
47	沖縄県	12	2	申込	109	0	197	0	464	0	1,205	0	1,975	0	10	0	4	0
				受験	78	0	119	0	371	0	961	0	1,529	0	10		4	
合計		823	195	合格	17	0	30	0	92	0	456	0	595	0				
合計				申込	31,861		28,150		35,802		34,034		129,847		4,205	0	6,778	5
					31,845	16	28,118	32	35,746	56	33,921	113	129,630	217				
				受験	29,339		25,638		33,015		30,873		118,865					
					29,327	12	25,617	21	32,971	44	30,795	78	118,710	155	4,205		6,783	
				合格	10,928		13,014		15,496		19,785		59,223					
					10,925	3	13,010	4	15,474	22	19,741	44	59,150	73				
受験率				受／申	92.1%		91.1%		92.2%		90.7%		91.5%					
					92.1%	75.0%	91.1%	65.6%	92.2%	78.6%	90.8%	69.0%	91.6%	71.4%				
合格率				合／受	37.2%		50.8%		46.9%		64.1%		49.8%					
					37.3%	25.0%	50.8%	19.0%	46.9%	50.0%	64.1%	56.4%	49.8%	47.1%				
第91回合格率				合／受	57.5%		55.9%		57.8%		67.8%		59.9%					
					57.5%	53.3%	55.9%	54.5%	57.9%	48.8%	67.8%	64.4%	59.9%	60.4%				

令和４年３月１２日
公益財団法人全国商業高等学校協会
簿記研究部

学習指導要領改訂にともなう検定試験の出題内容の変更について

文部科学省は平成３０年３月３０日に高等学校学習指導要領の改訂を行った。この新高等学校学習指導要領は令和４年から年次進行で実施される。当協会主催簿記実務検定は，第９５回検定（令和５年１月実施）から学習指導要領改訂の基本方針を踏まえた出題内容に順次変更する。ただし，第９４回検定（令和４年６月実施）の３級については，新検定に準じた内容を出題し，科目「簿記」の新旧履修者両方に対応する。

３級の目標

① 複式簿記による記録・計算・整理を行い，資産，負債，純資産，収益，費用の基本的な概念及び貸借対照表と損益計算書の役割・構造を理解する。
② 取引の仕訳から勘定の記入を経て，決算に至る簿記一巡の手続きができる。

２級の目標

① 学習指導要領（及び同解説）の「簿記」の目標に準ずる。
② 株式会社の設立・開業，剰余金の処分，税金に関する記帳処理ができる。

１級（会計）の目標

学習指導要領（及び同解説）の「財務会計Ⅰ」の目標に準ずる。

１級（原価計算）の目標

学習指導要領（及び同解説）の「原価計算」の目標に準ずる。

変更の時期

	令和４年度		令和５年度		
	第９４回	第９５回	第９６回	第９７回	第９８回
	令和４年６月	令和５年１月	令和５年６月	令和６年１月	令和６年６月
３級	旧検定(**新検定に準じた内容**)	**新検定**	**新検定**	**新検定**	**新検定**
２級	旧検定	**新検定**	**新検定**	**新検定**	**新検定**
１級(会計)	旧検定	旧検定	旧検定	**新検定**	**新検定**
１級(原価計算)	旧検定	旧検定	旧検定	**新検定**	**新検定**

追記　２級及び３級の出題例については簿記検定ニュース第９２号に掲載。
　　１級（会計及び原価計算）については全商教育ニュース創刊号に掲載予定。

令和４年度第95回簿記実務検定試験出題範囲

この検定試験は，文部科学省高等学校学習指導要領に定める内容によっておこなう。

Ⅰ　各級の出題範囲

各級の出題範囲は次のとおりである。ただし，２級の範囲は３級の範囲を含み，１級の範囲は２・３級の範囲を含む。

内　　容	（新）３　級	（新）２　級	（現行）１　級（会計）
(1) 簿記の原理	ア．簿記の概要 資産・負債・純資産・収益・費用 貸借対照表・損益計算書 イ．簿記の一巡の手続 取引・仕訳・勘定 仕訳帳・総勘定元帳 試算表 ウ．会計帳簿 主要簿と補助簿 現金出納帳・小口現金出納帳・当座預金出納帳・仕入帳・売上帳・商品有高帳(先入先出法・移動平均法)・売掛金元帳・買掛金元帳	受取手形記入帳 支払手形記入帳	（総平均法）
(2) 取引の記帳	ア．現金預金 イ．商品売買 ウ．掛け取引 カ．その他の債権・債務 キ．固定資産 取得 ク．販売費と一般管理費 ケ．個人企業の純資産	現金過不足の処理 当座借越契約 エ．手形 手形の受取・振出・決済・裏書・割引・書換・不渡 手形による貸付及び借入 営業外取引による手形処理 オ．有価証券 売買を目的とした有価証券 売却 追加元入れ・引き出し コ．税金 所得税・住民税・固定資産税・事業税・印紙税・消費税・法人税 サ．株式会社会計 設立・新株の発行・当期純損益の計上・剰余金の配当と処分	割賦販売（販売基準・回収基準） 未着商品売買・委託販売（委託者側の処理）・試用販売・予約販売 満期保有目的の債券･子会社株式･その他有価証券・有価証券利息 除却・建設仮勘定・無形固定資産 合併・資本金の増加・資本金の減少・任意積立金の取り崩し・自己株式
(3) 決算	ア．決算整理 商品に関する勘定の整理 貸倒れの見積もり 固定資産の減価償却（定額法） （直接法） イ．精算表 ウ．財務諸表 損益計算書（勘定式） 貸借対照表（勘定式）	（定率法） （間接法） 有価証券の評価 収益・費用の繰り延べと見越し 消耗品の処理	商品評価損・棚卸減耗損 （生産高比例法） 退職給付引当金 （報告式） （報告式） その他の財務諸表

内　　容	（新）３　級	（新）２　級	（現行）１　級（会計）
(4) 本支店会計		ア．本店・支店間取引 支店相互間の取引 イ．財務諸表の合併	
(5) 記帳の効率化	ア．伝票の利用 入金伝票・出金伝票・振替伝票の起票 イ．会計ソフトウェアの活用	伝票の集計と転記	
(6) 財務会計の概要			ア．企業会計の目的 イ．会計法規と会計基準 ウ．財務諸表の種類
(7) 資産，負債，純資産			ア．評価の基準 イ．資産の評価法
(8) 収益，費用			ア．損益計算の基準 イ．営業損益 ウ．営業外損益 エ．特別損益
(9) 連結財務諸表			ア．連結財務諸表の目的と連結の範囲 イ．連結財務諸表の作成
(10) 財務諸表分析の基礎			ア．財務諸表の意味と見方

内　　容	（現行）１　級（原価計算）
(1) 原価と原価計算	ア．原価の概念と原価計算 イ．製造業における簿記の特色と仕組み
(2) 費目別計算	ア．材料費の計算と記帳 イ．労務費の計算と記帳 ウ．経費の計算と記帳
(3) 部門別計算と製品別計算	ア．個別原価計算と製造間接費の計算 （製造間接費差異の原因別分析（公式法変動予算）を含む） イ．部門別個別原価計算 （補助部門費の配賦は，直接配賦法・相互配賦法による） ウ．総合原価計算 （月末仕掛品原価の計算は，平均法・先入先出法による） （仕損と減損の処理を含む）
(4) 製品の完成・販売と決算	ア．製品の完成と販売 イ．工場会計の独立 ウ．製造業の決算
(5) 標準原価計算	ア．標準原価計算の目的と手続き （パーシャルプランによる記帳を含む） イ．原価差異の原因別分析 ウ．損益計算書の作成
(6) 直接原価計算	ア．直接原価計算の目的 イ．損益計算書の作成 ウ．短期利益計画

Ⅱ　各級の勘定科目

勘定科目のおもなものを級別に示すと，次のとおりである。

ただし，同一の内容を表せば，教科書に用いられている別の名称の科目を用いてもさしつかえない。

（新）3　級

－ア行－	
受取地代	勘定
受取手数料	〃
受取家賃	〃
受取利息	〃
売上	〃
売掛金	〃
－カ行－	
買掛金	勘定
貸倒損失	〃
貸倒引当金	〃
貸倒引当金繰入	〃
貸付金	〃
借入金	〃
仮受金	〃

仮払金	勘定
給料	〃
繰越商品	〃
減価償却費	〃
現金	〃
広告料	〃
交通費	〃
小口現金	〃
－サ行－	
雑費	勘定
仕入	〃
支払地代	〃
支払手数料	〃
支払家賃	〃
支払利息	〃

資本金	勘定
車両運搬具	〃
従業員預り金	〃
従業員立替金	〃
商品	〃
商品売買益	〃
商品売買損	〃
消耗品費	〃
所得税預り金	〃
水道光熱費	〃
損益	〃
－タ行－	
建物	勘定
通信費	〃
定期預金	〃

当座預金	勘定
土地	〃
－ハ行－	
発送費	勘定
備品	〃
普通預金	〃
保険料	〃
－マ行－	
前受金	勘定
前払金	〃
未収金	〃
未収入金	〃
未払金	〃
－ラ行－	
旅費	勘定

（新）2　級

－ア行－	
印紙税	勘定
受取商品券	〃
受取手形	〃
営業外受取手形	〃
営業外支払手形	〃
－カ行－	
開業費	勘定
株式交付費	〃
仮受消費税	〃
仮払法人税等	〃
仮払消費税	〃
繰越利益剰余金	〃
現金過不足	〃
固定資産税	〃
固定資産売却益	〃
固定資産売却損	〃

－サ行－	
雑益	勘定
雑損	〃
事業税	〃
支店	〃
支払手形	〃
資本準備金	〃
社会保険料預り金	〃
車両運搬具減価償却累計額	〃
修繕費	〃
消耗品	〃
新築積立金	〃
創立費	〃
租税公課	〃
－タ行－	
建物減価償却累計額	勘定
貯蔵品	〃

手形貸付金	勘定
手形借入金	〃
手形売却損	〃
当座借越	〃
－ハ行－	
配当平均積立金	勘定
引出金	〃
備品減価償却累計額	〃
不渡手形	〃
別途積立金	〃
法人税等	〃
法定福利費	〃
本店	〃
－マ行－	
未払消費税	勘定
未払税金	〃
未払配当金	〃

未払法人税等	勘定
－ヤ行－	
有価証券	勘定
有価証券売却益	〃
有価証券売却損	〃
有価証券評価益	〃
有価証券評価損	〃
－ラ行－	
利益準備金	勘定
ほかに	
前払費用に関する	勘定
前受収益に関する	〃
未払費用に関する	〃
未収収益に関する	〃

（現行）1　級（会計）

－ア行－	
受取配当金	勘定
売上割引	〃
－カ行－	
開発費	勘定
割賦売掛金	〃
割賦仮売上	〃
機械装置	〃
機械装置減価償却累計額	〃
研究開発費	〃
建設仮勘定	〃
減債積立金	〃

鉱業権	勘定
鉱業権償却	〃
構築物	〃
構築物減価償却累計額	〃
子会社株式	〃
子会社株式評価損	〃
固定資産除却損	〃
－サ行－	
災害損失	勘定
仕入割引	〃
自己株式	〃
商品評価損	〃
その他資本剰余金	〃

その他有価証券	勘定
その他有価証券評価差額金	〃
－タ行－	
退職給付引当金	勘定
退職給付引当××預金	〃
退職給付費用	〃
棚卸減耗損	〃
投資有価証券売却益	〃
投資有価証券売却損	〃
特許権	〃
特許権償却	〃

－ナ行－	
のれん	勘定
のれん償却	〃
－ハ行－	
売買目的有価証券	勘定
非支配株主に帰属する当期純利益	〃
非支配株主持分	〃
評価差額	〃
－マ行－	
満期保有目的債券	勘定
－ヤ行－	
有価証券利息	勘定

（現行）1　級（原価計算）

－ア行－	
売上原価	勘定
－カ行－	
買入部品	勘定
外注加工賃	〃
ガス代	〃
機械装置	〃
機械装置減価償却累計額	〃
組間接費	〃
月次損益	〃
健康保険料	〃
健康保険料預り金	〃
工具器具備品	〃
工具器具備品減価償却累計額	〃
工場	〃
工場消耗品	〃
厚生費	〃

－サ行－	
材料消費価格差異	勘定
材料消費数量差異	〃
作業くず	〃
作業時間差異	〃
雑給	〃
仕損費	〃
仕損品	〃
修繕料	〃
従業員賞与手当	〃
消費材料	〃
消費賃金	〃
消耗工具器具備品	〃
水道料	〃
製造に関する勘定	
製造	勘定
×組製造	〃
××工程製造	〃

製造間接費	勘定
製造間接費配賦差異	〃
製造部門費に関する勘定	
××製造部門費	勘定
製造部門費配賦差異	〃
製品に関する勘定	
製品	勘定
×級製品	〃
×組製品	〃
操業度差異	〃
素材	〃
－タ行－	
退職給付費用	勘定
棚卸減耗損	〃
賃金	〃
賃借料	〃
賃率差異	〃
電力料	〃

特許権使用料	勘定
－ナ行－	
年次損益	勘定
燃料	〃
能率差異	〃
－ハ行－	
半製品に関する勘定	
××工程半製品	勘定
販売費及び一般管理費	〃
副産物	〃
部門共通費	〃
補助部門に関する勘定	
××部門費	勘定
本社	〃
－ヤ行－	
予算差異	勘定

簿記実務検定試験出題範囲（第 97 回より適用）（案）

この検定試験は，文部科学省高等学校学習指導要領に定める内容によっておこなう。

Ⅰ　各級の出題範囲

各級の出題範囲は次のとおりである。ただし，２級の範囲は３級の範囲を含み，１級の範囲は２・３級の範囲を含む。

内　　容	３　級	２　級	１　級（会計）
(1) 簿記の原理	ア．簿記の概要 資産・負債・純資産・収益・費用 貸借対照表・損益計算書 イ．簿記の一巡の手続 取引・仕訳・勘定 仕訳帳・総勘定元帳 試算表 ウ．会計帳簿 主要簿と補助簿 現金出納帳・小口現金出納帳・当座預金出納帳・仕入帳・売上帳・商品有高帳(先入先出法･移動平均法)・売掛金元帳・買掛金元帳	受取手形記入帳 支払手形記入帳	(総平均法)
(2) 取引の記帳	ア．現金預金 イ．商品売買 ウ．掛け取引 カ．その他の債権・債務 キ．固定資産 取得 ク．販売費と一般管理費 ケ．個人企業の純資産	現金過不足の処理 当座借越契約 エ．手形 手形の受取・振出・決済・裏書・割引・書換・不渡 手形による貸付及び借入 営業外取引による手形処理 オ．有価証券 売買を目的とした有価証券 売却 追加元入れ・引き出し コ．税金 所得税・住民税・固定資産税・事業税・印紙税・消費税・法人税 サ．株式会社会計 設立・新株の発行・当期純損益の計上・剰余金の配当と処分	銀行勘定調整表の作成 予約販売 サービス業会計 工事契約 満期保有目的の債券・他企業支配目的株式・その他有価証券・有価証券における利息 クレジット取引 電子記録債権・債務 除却・建設仮勘定・無形固定資産 リース会計(借り手の処理) 課税所得の計算 税効果会計に関する会計処理 合併・資本金の増加・資本金の減少・任意積立金の取り崩し・自己株式の取得・処分・消却 新株予約権の発行と権利行使 シ．外貨建換算会計
(3) 決算	ア．決算整理 商品に関する勘定の整理 貸倒れの見積もり 固定資産の減価償却(定額法) (直接法)	(定率法) (間接法) 有価証券の評価 収益・費用の繰り延べと見越し 消耗品の処理	商品評価損・棚卸減耗損 (生産高比例法) 税効果会計を含む処理 退職給付引当金 リース取引における利息の計算 外貨建金銭債権の評価

内　　容	3　級	2　級	1　級（会計）
	イ．精算表 ウ．財務諸表 損益計算書(勘定式) 貸借対照表(勘定式)		(報告式) (報告式) 株主資本等変動計算書
(4) 本支店会計		ア．本店・支店間取引 支店相互間の取引 イ．財務諸表の合併	
(5) 記帳の効率化	ア．伝票の利用 入金伝票・出金伝票・振替伝票の起票 イ．会計ソフトウェアの活用	伝票の集計と転記	
(6) 財務会計の概要			ア．企業会計と財務会計の目的 イ．会計法規と会計基準 ウ．財務諸表の種類
(7) 資産, 負債, 純資産			ア．資産, 負債の分類, 評価基準 イ．資産, 負債の評価法
(8) 収益, 費用			ア．損益計算の基準 イ．営業損益 ウ．営業外損益 エ．特別損益
(9) 財務諸表分析の基礎			ア．財務諸表の意義・方法 イ．収益性, 成長性, 安全性の分析 ウ．連結財務諸表の目的, 種類, 有用性

内　　容	1　級（原価計算）
(1) 原価と原価計算	ア．原価の概念と原価計算 イ．製造業における簿記の特色と仕組み
(2) 費目別計算	ア．材料費の計算と記帳 イ．労務費の計算と記帳 ウ．経費の計算と記帳
(3) 部門別計算と製品別計算	ア．個別原価計算と製造間接費の計算 （製造間接費差異の原因別分析（公式法変動予算）を含む） イ．部門別個別原価計算 （補助部門費の配賦は、直接配賦法・相互配賦法による） ウ．総合原価計算 （月末仕掛品原価の計算は、平均法・先入先出法による） （仕損と減損の処理を含む）
(4) 内部会計	ア．製品の完成と販売 イ．工場会計の独立 ウ．製造業の決算
(5) 標準原価計算	ア．標準原価計算の目的と手続き （シングルプラン及びパーシャルプランによる記帳を含む） イ．原価差異の原因別分析 ウ．損益計算書の作成
(6) 直接原価計算	ア．直接原価計算の目的 イ．損益計算書の作成 ウ．短期利益計画

Ⅱ　各級の勘定科目（第９７回より適用）

勘定科目のおもなものを級別に示すと、次のとおりである。

ただし、同一の内容を表せば、教科書に用いられている別の名称の科目を用いてもさしつかえない。

３　級

－ア　行－
受取地代　勘定
受取手数料　〃
受取家賃　〃
受取利息　〃
売上　〃
売掛金　〃
－カ　行－
買掛金　勘定
貸倒損失　〃
貸倒引当金　〃
貸倒引当金繰入　〃
貸付金　〃
借入金　〃
仮受金　〃
仮払金　〃

給料　勘定
繰越商品　〃
減価償却費　〃
現金　〃
広告料　〃
交通費　〃
小口現金　〃
－サ　行－
雑費　勘定
仕入　〃
支払地代　〃
支払手数料　〃
支払家賃　〃
支払利息　〃
資本金　〃

車両運搬具　勘定
従業員預り金　〃
従業員立替金　〃
商品　〃
商品売買益　〃
商品売買損　〃
消耗品費　〃
所得税預り金　〃
水道光熱費　〃
損益　〃
－タ　行－
建物　勘定
通信費　〃
定期預金　〃
当座預金　〃

土地　勘定
－ハ　行－
発送費　勘定
備品　〃
普通預金　〃
保険料　〃
－マ　行－
前受金　勘定
前払金　〃
未収金　〃
未収入金　〃
未払金　〃
－ラ　行－
旅費　勘定

２　級

－ア　行－
印紙税　勘定
受取商品券　〃
受取手形　〃
営業外受取手形　〃
営業外支払手形　〃
－カ　行－
開業費　勘定
株式交付費　〃
仮受消費税　〃
仮払法人税等　〃
仮払消費税　〃
繰越利益剰余金　〃
現金過不足　〃
固定資産税　〃
固定資産売却益　〃
固定資産売却損　〃

－サ　行－
雑益　勘定
雑損　〃
事業税　〃
支店　〃
支払手形　〃
資本準備金　〃
社会保険料預り金　〃
車両運搬具減価償却累計額　〃
修繕費　〃
消耗品　〃
新築積立金　〃
創立費　〃
租税公課　〃
－タ　行－
建物減価償却累計額　勘定
貯蔵品　〃

手形貸付金　勘定
手形借入金　〃
手形売却損　〃
当座借越　〃
－ハ　行－
配当平均積立金
引出金　〃
備品減価償却累計額　〃
不渡手形　〃
別途積立金　〃
法人税等　〃
法定福利費　〃
本店　〃
－マ　行－
未払消費税　勘定
未払税金　〃

未払配当金　勘定
未払法人税等　〃
－ヤ　行－
有価証券　勘定
有価証券売却益　〃
有価証券売却損　〃
有価証券評価益　〃
有価証券評価損　〃
－ラ　行－
利益準備金　勘定

ほかに
前払費用に関する　勘定
前受収益に関する　〃
未払費用に関する　〃
未収収益に関する　〃

１　級　（会　計）

－ア　行－
受取配当金　勘定
売上割引　〃
役務原価　〃
役務収益　〃
－カ　行－
開発費　勘定
為替差損益　〃
関連会社株式　〃
関連会社株式評価損　〃
機械装置　〃
機械装置減価償却累計額　〃
繰延税金資産　〃
繰延税金負債　〃
クレジット売掛金　〃
研究開発費　〃
建設仮勘定　〃
鉱業権　〃
鉱業権償却　〃

工事収益　〃
工事未収金　〃
構築物　〃
構築物減価償却累計額　〃
子会社株式　〃
子会社株式評価損　〃
固定資産除却損　〃
－サ　行－
災害損失　勘定
新株予約権　〃
新株予約権戻入益　〃
仕入割引　〃
仕掛品　〃
自己株式　〃
商品評価損　〃
支払リース料　〃
その他資本剰余金　〃
その他有価証券　〃

その他有価証券評価差額金　勘定
ソフトウェア　〃
ソフトウェア仮勘定　〃
ソフトウェア償却　〃
－タ　行－
退職給付引当金　勘定
退職給付引当××預金　〃
退職給付費用　〃
棚卸減耗損　〃
電子記録債権　〃
電子記録債務　〃
電子記録債権売却損
投資有価証券売却益　〃
投資有価証券売却損　〃
特許権　〃
特許権償却　〃
－ナ　行－
のれん　勘定

のれん償却　勘定
－ハ　行－
売買目的有価証券　勘定
法人税等調整額　〃
－マ　行－
満期保有目的債券　勘定
未成工事原価　〃
－ヤ　行－
有価証券利息　勘定
－ラ　行－
リース資産　勘定
リース債務　〃

１　級　（原価計算）

－ア　行－
売上原価　勘定
－カ　行－
買入部品　勘定
外注加工賃　〃
ガス代　〃
機械装置　〃
機械装置減価償却累計額　〃
組間接費　〃
月次損益　〃
健康保険料　〃
健康保険料預り金　〃
工具器具備品　〃
工具器具備品減価償却累計額　〃
工場　〃
工場消耗品　〃
厚生費　〃

－サ　行－
材料消費価格差異　勘定
材料消費数量差異　〃
作業くず　〃
作業時間差異　〃
雑給　〃
仕損費　〃
仕損品　〃
修繕料　〃
従業員賞与手当　〃
消費材料　〃
消費賃金　〃
消耗工具器具備品　〃
水道料　〃
製造に関する勘定
製造　勘定
×組製造　〃
××工程製造　〃

製造間接費　勘定
製造間接費配賦差異　〃
製造部門費に関する勘定
××製造部門費　勘定
製造部門費配賦差異　〃
製品に関する勘定
製品　勘定
×級製品　〃
×組製品　〃
操業度差異　〃
素材　〃
－タ　行－
退職給付費用　勘定
棚卸減耗損　〃
賃金　〃
賃借料　〃
賃率差異　〃
電力料　〃

特許権使用料　勘定
－ナ　行－
年次損益　勘定
燃料　〃
能率差異　〃
－ハ　行－
半製品に関する勘定
××工程半製品　勘定
販売費及び一般管理費　〃
副産物　〃
部門共通費　〃
補助部門に関する勘定
××部門費　勘定
本社　〃
－ヤ　行－
予算差異　勘定

41～52 ページは再作成中

（令和 4 年 11 月 7 日　現在）

出題例

公益財団法人全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援　令和〇〇年〇月〇〇日実施

第〇〇回　簿記実務検定第１級試験問題　原価計算

（制限時間１時間30分）

1　次の各問いに答えなさい。

(1)　次の［　　］にあてはまるもっとも適当な語を，下記の語群のなかから選び，その番号を記入しなさい。

標準原価計算において各費目勘定で差異を認識する方法を［　ア　］という。この方法を採用した場合，各費目勘定から仕掛品勘定への振り替えは［　イ　］でおこなう。

１．パーシャルプラン　　２．シングルプラン　　３．実 際 原 価　　４．標 準 原 価

(2)　埼玉製作所の下記の勘定記録と資料により，次の金額を求めなさい。ただし，会計期間は原価計算期間と一致しているものとする。なお，製造間接費配賦差異は売上原価に振り替える。

ａ．材料の実際消費高　　ｂ．間接労務費の実際発生額　　ｃ．売上原価

製　造

前期繰越	373,000	製　品	10,418,000
素　材	(　　)	次期繰越	(　　)
賃　金	3,360,000		
外注加工賃	302,000		
製造間接費	(　　)		
	(　　)		(　　)

製造間接費

素　材	246,000	製　造	(　　)
工場消耗品	(　　)	製造間接費配賦差異	(　　)
賃　金	(　　)		
給　料	1,239,000		
退職給付費用	405,000		
健康保険料	142,000		
水道料	(　　)		
減価償却費	178,000		
	(　　)		(　　)

資　料

① 素　材　期首棚卸高　¥660,000　当期仕入高　¥3,729,000　期末棚卸高　¥539,000

② 工場消耗品　期首棚卸高　¥35,000　当期仕入高　¥281,000　期末棚卸高　¥38,000

③ 賃　金　実際平均賃率　作業時間1時間につき　¥８００

直接作業時間４，２００時間　間接作業時間５００時間

⑤ 水道料　基本料金　¥15,000

当期使用量　２，１００㎥　単価１㎥あたり　¥１５０

水道料の計算方法は，基本料金に当期使用料を加算して求める。

⑥ 仕掛品　期首棚卸高　¥373,000　期末棚卸高　¥413,000

⑦ 製　品　期首棚卸高　¥819,000　期末棚卸高　¥906,000

⑧ 製造間接費配賦額は，直接作業時間1時間につき　¥７６０　の予定配賦率を用いている。

(3)　群馬製作所では，直接原価計算をおこない利益計画をたてている。当月における下記の資料から，次の金額または数量を求めなさい。

ａ．販売数量が２，４００個のときの営業利益　　ｂ．損益分岐点の売上高

ｃ．目標営業利益¥８，４２１，０００を達成するための販売数量

資　料

① 販売単価　¥３，２００

② 製造費用

変動製造費（製品1個あたり）　¥１，１２０

固定製造間接費　¥１，２００，０００

③ 販売費及び一般管理費

変動販売費（製品1個あたり）　¥４８０

固定販売費及び一般管理　¥６１９，０００

(4)　単純総合原価計算を採用している茨城製作所の次の資料から，月末仕掛品原価を求めなさい。

ただし，ⅰ　素材は製造着手のときに投入され，加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

ⅱ　月末仕掛品原価の計算は平均法による。

ⅲ　正常減損は製造工程の終点で発生しており，正常減損費は完成品のみに負担させる。

資　　料

①　生産データ

月初仕掛品	５００kg	(加工進捗度４０%)
当月投入	６，０００kg	
合　計	６，５００kg	
月末仕掛品	６００kg	(加工進捗度５０%)
正常減損	１００kg	
完成品	５，８００kg	

②　月初仕掛品原価

素材費	¥　３０６，０００
加工費	¥　２４８，０００

③　当月製造費用

素材費	¥３，５９４，０００
加工費	¥７，８１２，０００

(5)　標準原価計算を採用している栃木製作所の当月における下記の資料から，次の金額を求めなさい。

a. 月末仕掛品の標準原価　　b. 材料消費数量差異　　c. 賃率差異　　d. 能率差異

ただし，ⅰ　直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。

ⅱ　能率差異は，変動費能率差異と固定費能率差異を合計すること。

ⅲ　解答欄の（　　）のなかに不利差異の場合は（不利），有利差異の場合は（有利）と記入すること。

資　　料

①　標準原価カード

A製品　　標準原価カード

	標準消費数量	標準単価	金額
直接材料費	5kg	¥　４４０	¥２，２００
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	4時間	¥　９５０	¥３，８００
	標準直接作業時間	標準配賦率	
製造間接費	4時間	¥　７５０	¥３，０００
	製品1個あたりの標準原価		¥９，０００

②　生産データ

月初仕掛品	６００個(加工進捗度５０%)
当月投入	１，０００個
合　計	１，６００個
月末仕掛品	４００個(加工進捗度４０%)
完成品	１，２００個

③　実際直接材料費

実際消費数量	４，９５０kg
実際単価	¥４２０

④　実際直接労務費

実際直接作業時間	４，３００時間
実際賃率	¥９６０

⑤　製造間接費予算（変動公式予算）

変動費率	¥２５０
固定費予算額	¥２，１６０，０００
基準操業度(直接作業時間)	４，３２０時間

2 北陸工業株式会社は，組別原価計算を採用し，A組製品およびB組製品を製造している。次の資料によって，組別総合原価計算表とA組製造勘定および組間接費勘定を完成しなさい。

ただし，ⅰ　組間接費は機械運転時間を基準として配賦する。

ⅱ　素材は製造着手のときにすべて投入され，加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

ⅲ　月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。

資　　料

a．月初仕掛品原価

A組　¥1，５０４，０００（素材費　¥８２０，０００　　加工費　¥６８４，０００）

B組　¥　７２８，０００（素材費　¥４９２，０００　　加工費　¥２３６，０００）

b．当月製造費用

①材料費

素材の消費高は，1個あたり¥８２０の予定価格を用いて計算している。

素　　材　A組　　2，８００個　　B組　　2，７００個

工場消耗品　　¥　３３９，０００（組間接費）

②労務費

賃金の消費高は作業時間1時間につき¥1，５００の予定賃率を用いて計算している。

A組　1，２００時間　　B組　1，０００時間　　間接作業　２００時間

健康保険料　　¥１４９，０００

③経　費

外注加工賃　A組　¥２４５，０００　　B組　¥７４，０００

電　力　料　¥４２６，０００　　保　険　料　¥２１３，０００　　減価償却費　¥７１８，０００

④組間接費¥2，１４５，０００を，次の機械運転時間を基準に配賦する。

A組　4，２９０時間　　B組　2，８６０時間

c．生産データ

	A組		B組	
月初仕掛品	５００個	（加工進捗度６０%）	２００個	（加工進捗度５０%）
当月投入	1，４００個		９００個	
合　計	1，９００個		1，１００個	
月末仕掛品	４００個	（加工進捗度５０%）	１００個	（加工進捗度５０%）
完成品	1，５００個		1，０００個	

3 個別原価計算を採用している山梨製作所の下記の取引（一部）によって，次の各問いに答えなさい。

(1) 6月３０日①の取引の仕訳を示しなさい。

(2) 消費賃金勘定・製造勘定・製造間接費勘定に必要な記入をおこない，締め切りなさい。なお，勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。

(3) A製品（製造指図書＃1）とB製品（製造指図書＃2）の原価計算表を作成しなさい。

ただし，ⅰ 前月繰越高は，次のとおりである。

素　　材	２００個	@￥3，１００	￥	６２０，０００
工場消耗品	３４０〃	〃〃　５０	￥	１７，０００
仕　掛　品（製造指図書＃1）				￥3，１２７，０００（原価計算表に記入済み）

ⅱ 素材の消費高の計算は移動平均法により，工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。

ⅲ 賃金の消費高の計算には，作業時間1時間につき ￥1，３００ の予定賃率を用いて計算し，消費賃金勘定を設けて記帳している。

ⅳ 製造間接費は直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。

年間製造間接費予定額（予算額）	￥１１，８８０，０００
年間予定直接作業時間（基準操業度）	２６，４００時間

ⅴ 製造間接費勘定を設けている。

(4) 製造間接費配賦差異における次の資料から，予算差異の金額を求めなさい。なお，解答欄の（　　）のなかは借方差異の場合は借方，貸方差異の場合は貸方を○で囲むこと。

資　　料

a. 製造間接費については公式法変動予算により予算を設定して予定配賦を行っている。

b. 月間の基準操業度（直接作業時間）は年間予定直接作業時間（基準操業度）をもとに算出する。

c. 月間の製造間接費予算額 ￥９９０，０００（変動費率 ￥２３０ 固定費予算額 ￥４８４，０００）である。

d. 当月の実際直接作業時間は取引（一部）のとおりである。

e. 当月の実際製造間接費発生額は ￥８０６，０００ であった。

取　　引（一部）

6月　8日　素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ，代金は掛けとした。

素　　材	６００個	@￥3，２００	￥1，９２０，０００	
工場消耗品	８００〃	〃〃　５０	￥	４０，０００

１２日　B製品（製造指図書＃2）の注文を受け，素材６００個を消費して製造を開始した。

２５日　賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃 金 総 額　￥3，４１０，０００

うち，控除額　所 得 税　￥２６２，０００　健康保険料　￥１３６，０００

２６日　A製品（製造指図書＃1）４００個が完成した。なお，A製品の賃金予定消費高と製造間接費予定配賦高を，次の作業時間によって計算し，原価計算表に記入した。ただし，賃金予定消費高と製造間接費予定配賦高を計上する仕訳は，月末におこなっている。

製造指図書＃1　1，１００時間

３０日　① 工場消耗品の月末棚卸数量は１４０個であった。よって，消費高を計上した。（間接材料）

② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし，消費賃金勘定を設けている。

製造指図書＃1　1，１００時間　製造指図書＃2　1，０００時間　間接作業　２００時間

③ 健康保険料の事業主負担分￥１３６，０００を計上した。

④ 当月の製造経費消費高を計上した。

外注加工賃	￥１７０，０００（製造指図書＃2）	電 力 料	￥１３５，０００
減価償却費	２１６，０００	雑　　費	9，０００

⑤ 上記②の直接作業時間によって，製造間接費を予定配賦した。

⑥ 当月の賃金実際消費高￥2，９７１，０００ を計上した。

⑦ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を，賃率差異勘定に振り替えた。

⑧ 製造間接費の予定配賦高と実際配賦高との差額を，製造間接費配賦差異勘定に振り替えた。

4 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし，勘定科目は，次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

売掛金	製品	仕損品	第１工程半製品
１級製品	２級製品	３級製品	売上
売上原価	第１製造部門費	第２製造部門費	動力部門費
工場事務部門費	仕損費	製造	製造間接費
第１工程製造	第２工程製造	本社	工場

ａ．等級別総合原価計算を採用している秋田産業株式会社において，１級製品２，０００個，２級製品３，０００個，３級製品４，５００個が完成した。ただし，完成品の総合原価は ￥３，１８７，５００ であり，等価係数は次の各製品１個あたりの重量を基準としている。

１級製品　２８０ｇ　　２級製品　２００ｇ　　３級製品　１２０ｇ

ｂ．個別原価計算を採用している神奈川製作所は，補助部門費を次の配賦基準により，直接配賦法で各製造部門に配賦した。ただし，部門費配分表に集計された補助部門費の金額は，動力部門費 ￥６２０，０００　工場事務部門費 ￥２０８，０００ であった。

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	工場事務部門
動力部門費	kW数×運転時間数	１８kW×４００時間	１５kW×３２０時間	－	１２kW×２００時間
工場事務部門費	従業員数	８人	５人	２人	１人

ｃ．工場会計が独立している広島製作所の本社は，得意先島根商店に製品４６０個を@￥１，２５０で掛け売りした。なお，この製品の製造原価は@￥７１０である。ただし，製品勘定は工場に設けてある。（本社の仕訳）

ｄ．工程別総合原価計算を採用している大分製作所は，月末に工程別総合原価計算表を作成し，各工程の完成品原価を次のとおり計上した。なお，各工程の完成品はすべていったん倉庫に保管しており，当月中に倉庫から第２工程（最終工程）に投入した第１工程の完成品原価は ￥９，０００，０００ である。ただし，当社では第１工程の完成品原価をすべて第１工程半製品勘定に振り替えている。

第１工程　￥７，３８０，０００　　第２工程　￥１０，７２０，０００

ｅ．個別原価計算を採用している三重製作所では，製造指図書＃１０２の製品の全部が仕損じとなり，新たに製造指図書＃１０２－１を発行して代品を製造した。各製造指図書に集計された製造原価は次のとおりであり，仕損費を計上した。

製造指図書＃１０２　￥３７０，０００　　製造指図書＃１０２－１　￥２９０，０００

公益財団法人全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第〇〇回　簿記実務検定　１級　原価計算　〔答案用紙〕

1

(1)

ア	イ

(2)

a	材料の実際消費高	¥
b	関節労務費の実際発生額	¥
c	売上原価	¥

(3)

a	販売数量が２，４００個のときの営業利益	¥
b	損益分岐点の売上高	¥
c	目標営業利益¥８，４２１，０００を達成するための販売数量	個

(4)

月末仕掛品原価　¥

(5)

a	月末仕掛品の標準原価	¥	
b	材料消費数量差異	¥	(　　)
c	賃率差異	¥	(　　)
d	能率差異	¥	(　　)

1	2	3	4	総得点
得点	得点	得点	得点	

試験場校	受験番号

2

組別総合原価計算表

令和○年6月分

摘要		A組	B組
組直接費	素材費		
	加工費		
組間接費	加工費		
当月製造費用			
月初仕掛品原価	素材費	820,000	492,000
	加工費	684,000	236,000
計			
月末仕掛品原価	素材費		246,000
	加工費	476,000	
完成品原価			
完成品数量		1,500個	1,000個
製品単価		¥	¥

A組製造

前月繰越	1,504,000	(　　)	(　　)
素材	(　　)	次月繰越	(　　)
賃金	(　　)		
外注加工賃	(　　)		
(　　)	(　　)		
	(　　)		(　　)

組間接費

工場消耗品	(　　)	諸口	(　　)
賃金	(　　)		
健康保険料	(　　)		
諸口	(　　)		
	(　　)		(　　)

2	
得点	

3

(1)

	借　　方	貸　　方
6月30日①		

(2)

消　費　賃　金

製　　造

6/1 前　月　繰　越 3,030,000	

製　造　間　接　費

(3)

製造指図書＃1　　原　価　計　算　表

直接材料費	直接労務費	製造間接費	集　計 摘　要	集　計 金　額
2,100,000	700,000	230,000	直接材料費	
			直接労務費	
			製造間接費	
			製造原価	
			完成品数量	個
			製品単価	¥

(4)

予　算　差　異　¥　　（借方・貸方）

※（借方・貸方）のいずれかを○で囲むこと

3 得点	

4

	借　　方	貸　　方
a		
b		
c		
d		
e		

4 得点	

公益財団法人全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第〇〇回　簿記実務検定　１級　原価計算　〔全 解 答〕

1

(1)

ア	イ
4	2

(注意)枠の中が2つとも合っている場合に正答とする。

(2)

a	材料の実際消費高	¥	4,128,000
b	関節労務費の実際発生額	¥	2,186,000
c	売上原価	¥	10,357,000

(3)

a	販売数量が２，４００個のときの営業利益	¥	2,021,000	
b	損益分岐点の売上高	¥	3,638,000	
c	目標営業利益¥８，４２１，０００を達成するための販売数量		6,400	個

(4)

月末仕掛品原価	¥	750,000	

(5)

a	月末仕掛品の標準原価	¥	1,968,000	
b	材料消費数量差異	¥	22,000	(有利)
c	賃率差異	¥	43,000	(不利)
d	能率差異	¥	45,000	(不利)

1	3点×12＝36点	2	4点×5＝20点	3	3点×8＝24点	4	4点×5＝20点	合計	100点

2

組別総合原価計算表

令和○年6月分

摘要		A組	B組
組直接費	素材費	2,296,000	2,214,000
	加工費	2,045,000	1,574,000
組間接費	加工費	1,287,000	858,000
当月製造費用		5,628,000	4,646,000
月初仕掛品原価	素材費	820,000	492,000
	加工費	684,000	236,000
計		7,132,000	5,734,000
月末仕掛品原価	素材費	656,000	246,000
	加工費	476,000	128,000
完成品原価		6,000,000	5,000,000
完成品数量		1,500個	1,000個
製品単価		¥ 4,000	¥ 5,000

A組製造

前月繰越	1,504,000	(A組製品)	(6,000,000)
素材	(2,296,000)	次月繰越	(1,132,000)
賃金	(1,800,000)		
外注加工賃	(245,000)		
(組間接費)	(1,287,000)		
	(7,132,000)		(7,132,000)

組間接費

工場消耗品	(339,000)	諸口	(2,145,000)
賃金	(300,000)		
健康保険料	(149,000)		
諸口	(1,357,000)		
	(2,145,000)		(2,145,000)

2	4点×5 ＝20点

3

(1)

	借方		貸方	
6月30日①	製造間接費	50,000	工場消耗品	50,000

(2)

消費賃金

6/30	賃金	2,971,000	6/30	諸口	2,990,000
〃	賃率差異	19,000			
		2,990,000			2,990,000

製造

6/1	前月繰越	3,127,000	6/26	製品	5,052,000
12	素材	1,905,000	30	次月繰越	3,825,000
30	消費賃金	2,730,000			
〃	外注加工賃	170,000			
〃	製造間接費	945,000			
		8,877,000			8,877,000

製造間接費

6/30	工場消耗品	50,000	6/30	製造	945,000
〃	消費賃金	260,000			
〃	健康保険料	136,000			
〃	諸口	360,000			
〃	製造間接費配賦差異	139,000			
		945,000			945,000

(3)

製造指図書＃1　　原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費	集計 摘要	集計 金額
2,077,000	780,000	270,000	直接材料費	2,077,000
	1,430,000	495,000	直接労務費	2,210,000
	2,210,000	765,000	製造間接費	765,000
			製造原価	5,052,000
			完成品数量	400 個
			製品単価	¥ 12,630

(4)

予算差異	¥ 161,000（ 借方・(貸方) ）

3	3点×8 ＝24 点

4

	借方		貸方	
a	1級製品	1,050,000	製造	3,187,500
	2級製品	1,125,000		
	3級製品	1,012,500		
b	第1製造部門費	500,000	動力部門費	620,000
	第2製造部門費	328,000	工場事務部門費	208,000
c	売掛金	575,000	売上	575,000
	売上原価	326,600	工場	326,600
d	第1工程半製品	7,380,000	第1工程製造	7,380,000
	第2工程製造	9,000,000	第1工程半製品	9,000,000
	製品	10,720,000	第2工製造	10,720,000
e	仕損費	370,000	製造	370,000

4	4点×5 ＝20点